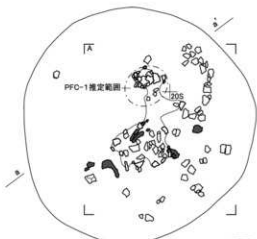
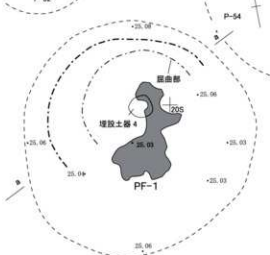
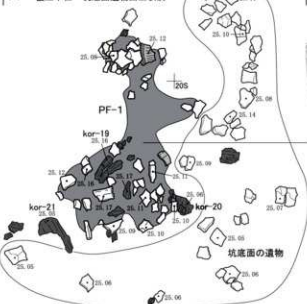


P-53

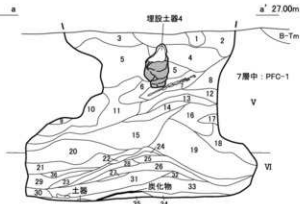
P-52



A 覆土下位～坑底面遺物出土状況



kor-19 ~ 21 : 炭化樹種特定・放射性炭素年代測定資料



番号	土色	土質区分	粘着性	堅固度	層界
1	黄褐色	10103/1	硬土	中	軟
2	にぶい黄褐色	10104/2	硬土	強	軟
3	灰黄褐色	10104/2	硬土	強	軟
4	にぶい黄褐色	10103/3	硬土	強	軟
5	にぶい黄褐色	10103/4	硬土	強	軟
6	暗褐色	10103/4	硬土	強	軟
7	暗褐色	10103/3	硬土	強	軟
8	黄褐色	10103/6	硬土	強	やや硬
9	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
10	にぶい黄褐色	10103/4	硬土	強	軟～しよ
11	黄褐色	10103/6	硬土	強	やや硬
12	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
13	黄褐色	10104/1	硬土	強	軟
14	灰黄褐色	10104/2	硬土	強	軟
15	黄褐色	10103/2	硬土	強	軟
16	にぶい黄褐色	10103/4	硬土	強	軟
17	灰黄褐色	10103/2	硬土	強	やや硬
18	灰黄褐色	10104/2	硬土	強	軟
19	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
20	黄褐色	10103/6	硬土	強	やや硬
21	灰黄褐色	10103/2	硬土	強	軟
22	暗褐色	10102/1	硬土	中	軟～しよ
23	暗赤褐色	5103/3	硬土	中	軟
24	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
25	暗赤褐色	5103/3	硬土	中	軟～しよ
26	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
27	暗赤褐色	5103/3	硬土	強	軟
28	暗褐色	10103/4	硬土	強	軟
29	灰黄褐色	10103/2	硬土	強	やや硬
30	明黄褐色	10103/6	硬土	強	やや硬
31	黄褐色	10103/2	硬土	強	軟
32	黄褐色	10103/2	硬土	強	軟
33	明黄褐色	10103/6	硬土	強	軟
34	暗褐色	10103/4	硬土	強	軟
35	にぶい黄褐色	5103/3	硬土	強	軟
36	灰黄褐色	10104/2	硬土	強	軟
37	黄褐色	10103/6	硬土	強	やや硬

炭化物 a 1m1%含む
炭化物数量
炭化物 a 1m1%含む
フレイクを多く含む
炭化物を多く含む
焼土・炭化物多く含む
焼土・炭化物多く含む
焼土
炭化物に混じる
炭化物数量
炭化物数量

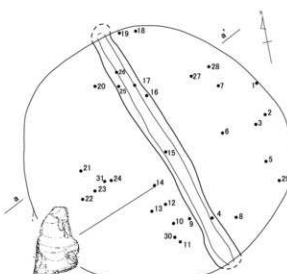
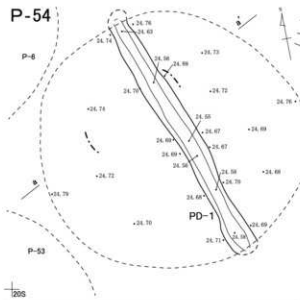
PFO-1
接合資料 6



0 1m

図IV-55 P-53

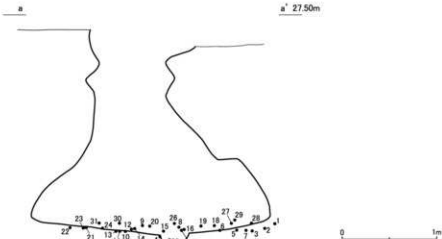
P-54



取上げ番号

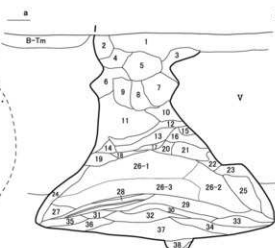
番号	分類	層位	点数
1	礎	坑底	1
2	礎	坑底	1
3	礎	坑底	1
4	礎	坑底	1
5	フレイク	坑底	1
6	フレイク	坑底	1
7	礎	坑底	1
8	フレイク	坑底	1
9	焼成粘土塊	坑底	1
10	フレイク	坑底	1
11	礎	坑底	1
12	焼成粘土塊	坑底	1
13-1	礎	坑底	1
13-2	フレイク	坑底	1
14-1	スレイベー	坑底	1
14-2	フレイク	坑底	1
15-1	フレイク	坑底	2
15-2	礎片	坑底	1
16	フレイク	坑底	1
17	礎	坑底	1
18	礎石	坑底	1
19	礎片	坑底	1
20	フレイク	坑底	1
21	フレイク	坑底	1
22	たたき石	坑底	1
23	礎石	坑底	1
24	フレイク	坑底	1
25-1	フレイク	礎土下位	1
25-2	礎	礎土下位	1
26	礎	礎土下位	2
27	フレイク	礎土下位	2
28	フレイク	礎土下位	1
29	礎	礎土下位	1
30	フレイク	礎土下位	2
31	スレイベー	礎土下位	1

●数字は取上げ番号



図IV-56 P-54

a' 27.50m



番号	土色	土性区分	粘着性	堅固度	層界
1	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	中	やや硬	明確
2	黒褐色 10YR3/1	硬礫土	中	やや硬	明確
3	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	中	やや硬	明確
4	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	中	やや硬	明確
5	にぶい黄褐色 10YR4/4	硬礫土	強	やや硬	炭化物質量
6	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	やや硬	明確
7	黒褐色 10YR3/2	硬礫土	強	軟	明確
8	黄褐色 10YR5/6	礫土	強	やや軟	明確
9	褐色 10YR4/4	礫土	強	やや硬	明確
10	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明確
11	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明確
12	黒褐色 10YR3/1	硬礫土	中	軟	炭化物質量
13	黒褐色 10YR3/2	硬礫土	中	軟	炭化物質量
14	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	軟	明確
15	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土	強	軟	明確
16	黒褐色 10YR3/1	硬礫土	中	軟	炭化物質量
17	褐色 10YR3/2	硬礫土	中	軟	明確
18	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土+砂	弱	軟	明確
19	暗褐色 10YR3/3	硬礫土+砂	中	軟~しゅう	明確
20	暗褐色 10YR3/3	硬礫土+砂	中	軟~しゅう	明確
21	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬礫土+砂	弱	しゅう	明確
22	暗褐色 10YR3/3	硬礫土+砂	中	軟~しゅう	明確
23	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	弱	やや硬	明確
24	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	弱	やや硬	明確
25	明黄褐色 10YR6/6	礫土	強	硬	明確
26-1	にぶい黄褐色 10YR7/3	礫土+砂	弱	軟	+++
26-2	にぶい黄褐色 10YR6/4	礫土	弱	軟	+++
26-3	褐色 10YR4/4	礫土	弱	軟	+++
27	にぶい黄褐色 10YR6/4	礫土	弱	軟	+++
28	暗褐色 10YR3/4	硬~硬礫土	弱	軟	明確
29	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	中	軟	明確
30	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	中	軟	明確
31	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	中	軟	明確
32	褐色 10YR4/6	硬礫土	強	軟	明確
33	褐色 10YR4/6	硬礫土	強	軟	明確
34	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	中	軟	明確
35	褐色 10YR4/6	硬礫土	強	軟	明確
36	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	中	軟	明確
37	褐色 7.5YR4/4	硬礫土	中	軟	明確
38	褐色 7.5YR4/4	硬礫土	中	軟	明確
39	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	中	軟	明確

時期 坑底面出土のⅡ群b類土器から縄文時代前期後半である。覆土下位の炭化材については放射性炭素年代測定を行い、炭化材 Kor-19 が $4,800 \pm 30\text{yrBP}$ 、炭化材 Kor-20・炭化材 Kor-21 が $4,820 \pm 30\text{yrBP}$ という結果が得られた（付篇参照）。

P-54

位置 19 S **規模** $1.12 \times - / 2.84 \times 2.75 / 2.17\text{m}$ **平面形** (坑底面) 円形

確認・特徴 V層で灰黄褐色土のまとまりを確認し、トレンチ調査を行ったところ、概ね平坦な坑底面と急角度でオーバーハングし立ち上がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部はトレンチ調査により掘削し平面形は不明、頸部は長い。

覆土 39層に分層した。覆土下位の覆土28～39層は土坑中心部が厚く坑底端で薄くなる山形の堆積が見られる。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。山形の堆積の上位の覆土25・26層はV・VI層が主体の土が厚く堆積し、これより上位の覆土12～24層は暗褐色～黒褐色土を含む土が堆積している。頸部には主に覆土11層のにぶい黄褐色土、開口部には覆土1～5層までの灰黄褐色土にぶい黄褐色土と焼土を含むにぶい赤褐色土が充填されたものとみられる。覆土は人為と判断する。

付属遺構 坑底面の中央に南北方向の溝状遺構（PD）1カ所を検出した。溝状遺構の両端は坑底の壁面をオーバーハングして作られている。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器315点、焼成粘土塊6点、石鏃1点、両面調整石器1点、スクレイパー4点、剥片127点、石核2点、擦り切り残片1点、たたき石7点、扁平打製石器1点、石錘1点、石皿1点、原石5点、加工痕ある礫1点、礫125点の計598点出土した。このうち坑底面では大型の焼成粘土塊、スクレイパー、剥片、たたき石、礫など28点が点在して出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

（袖岡）

P-55

位置 22 S・22 T **規模** $1.43 \times - / (2.27) \times 2.12 / 1.30\text{m}$ **平面形** (坑底面) 楕円形

調査・特徴 21～23 S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査（P-22に詳細）で、トレンチの断面に開口部から底面へとオーバーハングする断面を確認し、フラスコ状土坑と判断した。坑底部の南側はP-39、西側はP-56と切りあう。P-56とは土層から本遺構が新しく、P-39とは新旧関係不明である。南東側には埋設土器2が近接する。付属遺構はない。

覆土 覆土は6層に分層した。この上位にはⅡ層・B-Tm火灰・Ⅲ層が窪みに堆積する。覆土はいずれもV層主体土で、色調は黄褐色、褐色を呈する。覆土3・4・6層には炭化物が少量混じり、覆土6層には被熱した橙色のV層ロームがブロック状に混じる。覆土1～4層は固く締まる。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器115点、つまみ付きナイフ1点、剥片26点、磨製石斧1点、礫41点など計190点が出土した。覆土中からはⅡ群b類土器は円筒土器下層c式がまとまって出土した。

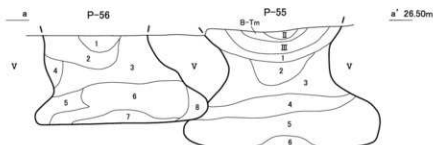
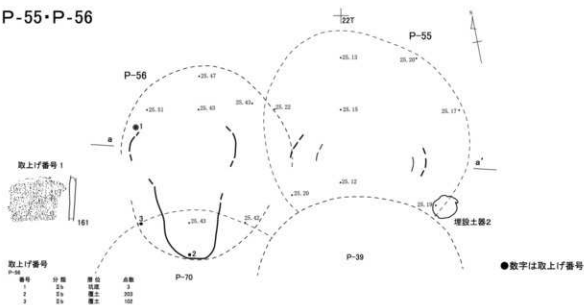
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-56より古い。

P-56

位置 22 S **規模** $(1.38) \times 1.12 / 2.07 \times 1.82 / 0.95\text{m}$ **平面形** (坑底面) 楕円形

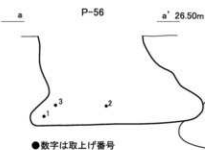
調査・特徴 21～23 S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査（P-22に詳細）で、ト

P-55・P-56



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚	備考
1	黄褐色	10YR5/6	強	すこぶる堅	両側	V>III
2	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	両側	V>III
3	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	両側	V>III 炭化物少量
4	黄褐色	10YR5/6	強	すこぶる堅	両側	V>III 炭化物散在
5	黄褐色	10YR5/6	強	堅	両側	V
6	褐色	10YR4/6	強	軟	両側	V>III 炭化物散在 V:一部炭化ブロック

番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚	備考
1	黄褐色	10YR3/2	中	すこぶる堅	両側	II・III>V 炭化物少量
2	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	両側	V>III 炭化物少量
3	褐色	7.5YR4/4	強	すこぶる堅	両側	V>III 炭化物少量
4	褐色	7.5YR4/4	強	すこぶる堅	両側	V>III
5	暗褐色	7.5YR3/4	強	堅	両側	V 炭化物少量
6	褐色	10YR4/6	強	すこぶる堅	両側	V
7	褐色	7.5YR4/6	強	堅	両側	V 炭化ブロック 全体に散在
8	褐色	7.5YR4/6	強	堅	両側	V 炭化ブロック 炭化物 全体に散在



図IV-57 P-55・P-56

レンチの断面に開口部から底面へとオーバーハングする断面を確認し、フラスコ状土坑と判断した。開口部は、平面形が長楕円形である。坑底部の東側はP-55、南側はP-70と切りあい、土層から本遺構がP-55より古く、P-70とは新旧関係が不明である。付属遺構はない。

覆土 覆土は8層に分層した。覆土1層はⅢ層黒色土主体で炭化物が少量混じる。覆土2～8はV層主体で、色調は覆土5層が暗褐色、それ以外は褐色である。覆土2・3・5・8層には炭化物が少量混じり、最下層の覆土7・8層には被熱した橙色のV層ロームがブロック状に全体に混じる。覆土1～4・6層は固く締まる。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器が444点と多く、他につまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、剥片70点、扁平打製石器1点、礫52点など計574点が出土した。Ⅱ群b類土器は縦位の撚り戻し縄文がみられる胴部、底部片で円筒土器下層c式の可能性が高い。底部片はP-29の覆土の土器とも接合した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-55より新しい。(愛場)

P-57

位置 19 S **規模** 2.30 × 1.70/1.71 × 1.63/1.68 m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 表土除去後にV層面でB-Tm火山灰と黒褐色～暗褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定し半截したところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がり開口部で開く壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部の平面は不整な楕円形である。付属遺構は精査したが検出なかった。

覆土 18層に分層した。開口部のB-Tm火山灰と覆土1～5層までは自然堆積によるもので、覆土6～12層はにぶい黄褐色土や褐色、灰黄褐色土、13層は黒褐色土が堆積していた。くびれ部より下位の覆土14～18層はV層ローム質土を主体とした土が堆積していた。覆土は自然堆積土を除き人為によるものである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器27点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、剥片16点、原石2点、礫3点の計50点出土した。Ⅱ群b類土器は小破片で細分できなかったが、厚みがあるため円筒土器下層d2式の可能性がある。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

(袖岡)

P-58

位置 23 R・23 S **規模** 1.21 × - / 2.45 × 2.33/1.60 m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 P-31調査中、坑底部西側の壁に別遺構の覆土がみられた。西側を精査するとV層上面で褐色土のまとまりがみられたため、北側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部北側にはP-47が近接する。坑底面の北東側はP-31と切りあい、南東側はP-73とわずかに接する。新旧関係はP-31より古く、それ以外は不明である。付属遺構はない。

覆土 覆土は13層に分層した。すべてV層主体で、上位の覆土1～5層までが黄色味が強く、それより下位はⅢ層黒色土がやや混じり、黒味が強い土層が多い。覆土6・11層には炭化物が層状にみられ、ともに焼土粒も混じる。覆土13層は土坑中央の最下層の暗褐色土層で、焼土ブロックとⅢ層が混じる土層である。覆土1・2・4層は固く締まり、覆土11～13層は柔らかい土層である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器762点、石鏃2点、両面調整石器1点、剥片90点、たたき石3点、石鏟1点、礫60点、石製品1点など計943点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式が主体で、覆土からは赤色物質が残る口縁部片(166)があり、坑底面の南西側では割られた状態で1個体(163)が出土した。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。P-31より古い。

P-59

位 置 23 S 規 模 $1.10 \times (0.54) / 1.60 \times (0.66) / 1.08 \text{ m}$ 平面形(坑底面) 円形?

調査・特徴 P-37 調査中、北西壁際に別遺構の覆土がみられた。P-37 発掘後、北西側の覆土を掘り進め、遺構中央と推定される部分で、土層を確認した。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。形状は開口部が開き小型である。土坑の南東側はP-37と切りあうが、新旧は不明である。付属遺構はない。

覆 土 覆土は4層に分層した。すべてV層主体で、ほとんどⅢ層起源の黒色土が混じらない。いずれも炭化物が少量混じり、覆土2層は固く締まる。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器8点、剥片6点、礫10点など計29点出土した。Ⅱ群b類土器は、小破片だが円筒土器下層c式が主体である。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-60

位 置 22 R・22 S 規 模 $0.87 \times (0.50) / 2.18 \times 2.11 / 1.46 \text{ m}$ 平面形(坑底面) 円形

調査・特徴 21～23 S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチの断面に底部がオーバーハングする断面を確認し、フラスコ状土坑と判断した。坑底面はⅥ層を40 cm以上掘り込んだ面である。北側にP-36、SP-139がある。

覆 土 覆土は6層に分層した。すべてV層主体で、覆土1・2層は黄色味が強く、覆土3層と最下層の覆土6層はⅢ層黒色土が混じり、やや黒味が強い。覆土4・5層はⅥ層主体で、固く締まる。覆土1・2・6層には炭化物が少量混じり、覆土3層では炭化物が層状にみられる部分がある。

付属遺構 小土坑(P P) 2基を坑底面で確認した。P P-1は坑底面中央にあり、平面形は直径31 cmの円形で、深さは15 cmである。P P-2は土坑の北東側にあり、平面形は長さ61 cmの不整の楕円形で、溝状遺構としていいものかもしれない。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器17点、焼成粘土塊16点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、スクレイパー4点、剥片191点、大型の石核1点、磨製石斧1点、擦り切り残片1点、たたき石1点、扁平打製石器2点、礫126点など計372点出土した。このうち坑底面の遺物はⅡ群b類土器2点、扁平打製石器1点、U・Rフレイク2点、礫2点と少ない。Ⅱ群b類土器は摩耗するものが多く不明瞭だが、文様から円筒土器下層b式、円筒土器下層d1式の土器片がある。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-61

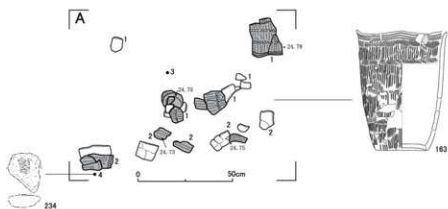
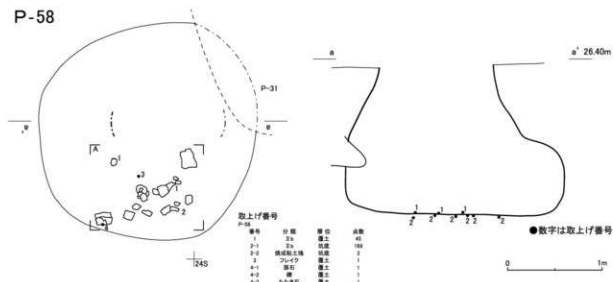
位 置 21 R・21 S 規 模 $- \times - / 1.84 \times 1.61 / 1.09 \text{ m}$ 平面形(坑底面) 楕円形

調査・特徴 P-48 調査中に南西側の壁際に他遺構の覆土がみられたため、トレンチをP-48の南西側に設定した。土坑上位は風倒木があって破壊されているが、中位から坑底部は残存し、土層断面形状からフラスコ状土坑と判断した。P-48との新旧関係は不明である。付属遺構はない。

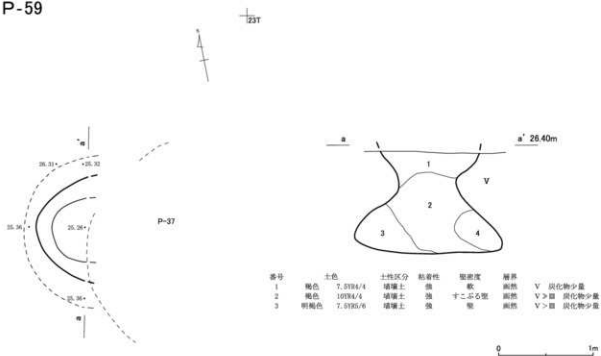
覆 土 覆土は7層に分層した。いずれもV層主体で、覆土5層は暗褐色土、それ以外は明褐色土、褐色土である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器188点、石槍・ナイフ1点、つまみ付きナイフ1点、剥片99点、たたき石3点、礫44点など計343点出土した。Ⅱ群b類土器は胴部の小破片で、細分できなかった。

P-58

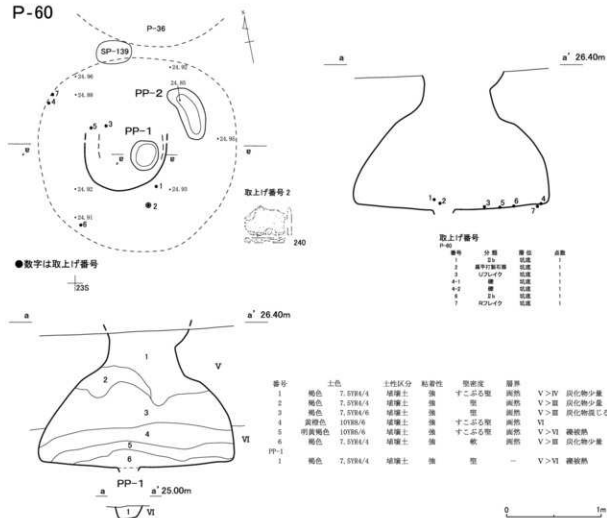


P-59

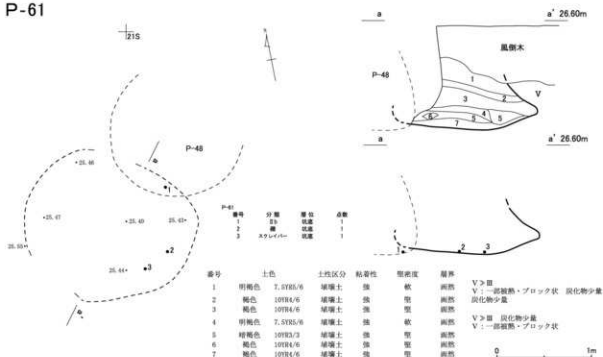


図IV-59 P-58(2)・P-59

P-60

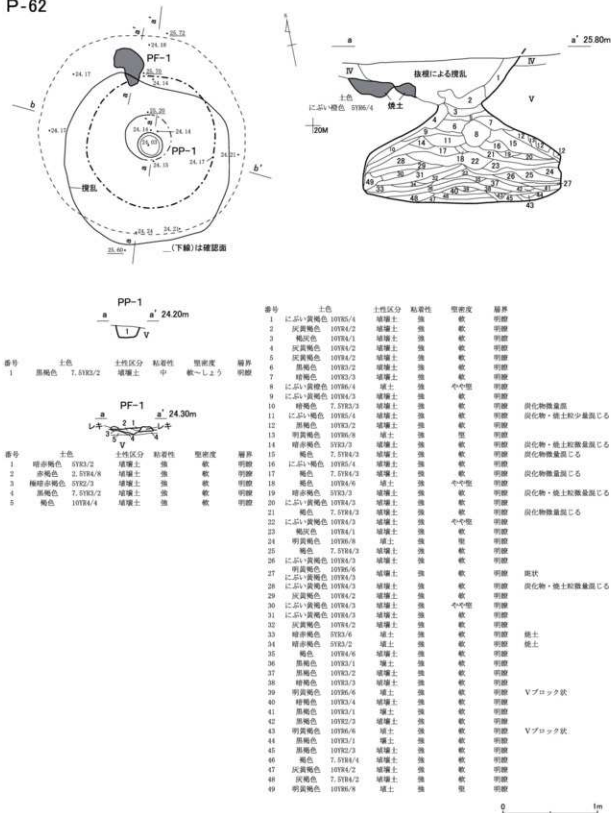


P-61



図IV-60 P-60・P-61

P-62



図IV-61 P-62(1)

P-62

位 置 19 L・20 L 規 模 $1 \times 2.30 \times 2.14/1.57$ m 平面形 (坑底面) 楕円形

確認・特徴 V層面で、にぶい黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がり開口部が開く壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。覆土中の焼土検出の炭化物は放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。

覆 土 49層に分けた。覆土33～49層は覆土下位～坑底面にかけて堆積しており、坑底中央部が厚く坑底端が薄い山形の堆積になっている。坑底中央部にはV層ローム質土主体の土(39・46・47・48層)が堆積し、その上に黒褐色土や暗褐色土主体の土(36・37・38・41・42・44・45層)、更にその上に焼土を含む暗赤褐色土(33・34層)が堆積している。覆土下位の山形堆積からは半円形の盆状漆製品が検出されている。土坑のくびれ部分より下位の覆土3～32層は、山形の堆積を覆い、字に堆積している。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土はV層ローム質土主体の土が多く、焼土を含む層やロームをよく含む塊状のものも入っている。開口部からくびれ部までは抜根による攪乱を受けているが、残存している北側には、頸部の充填土のにぶい黄褐色土(1層)と灰黄褐色土(2層)が観察できる。開口部南側では、焼成を受け赤褐色化するV層土を確認した。覆土中の焼土はこの周辺由来のものと考えられる。覆土は人為によるものである。

付属遺構 小土坑(P P)1基、焼土(P F)1か所を検出した。P P-1は坑底面中央にある。P F-1はここで焚かれたものではなく、焼土主体の土が坑底直上に入れられたものである。土層断面は画然としていた。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器274点、石鏃1点、つまみ付きナイフ4点、スクレイパー3点、Rフレイク5点、Uフレイク4点、剥片246点、たたき石5点、北海道式石冠1点、石鏃1点、砥石1点、石皿1点、原石4点、礫309点、軽石製石製品1点、漆製品1点の計861点出土した。

覆土中位では土坑の中央よりやや西側に小砂利のまとまりがみられた。覆土下位の山形堆積の端では紐状にみえる赤色のまとまりを検出した。漆製品であることが想定されたため、土ごと取り上げ、室内で再調査(付篇第6節)し、保存処理と成分分析を実施した(付篇第5節)。土坑西側の覆土下位～坑底面では遺物が多くみられ、大型の棒状礫、礫、Ⅱ群b類の円筒土器下層c式などが出土した。

時 期 坑底面出土のⅡ群b類土器から縄文時代前期後半である。P F-1で得られた炭化物と、覆土中の焼土から得られた炭化物で放射性炭素年代測定と樹種同定を行ったところ、P F-1(Kor-23)では ^{14}C 年代が $4,710 \pm 30\text{yrBP}$ 、樹種がブナ属、覆土中の焼土(Kor-22)では $4,790 \pm 30\text{yrBP}$ 、樹種はクリという結果が得られた(付篇参照)。

P-63

位 置 18 N 規 模 $2.63 \times 2.56/2.09 \times 2.09/0.68$ m 平面形 円形

確認・特徴 V層面で灰黄褐色土～にぶい黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定し半載したところ、平坦な坑底面と緩やかに立ち上がる壁を検出し、土坑と認定した。

覆 土 8層に分けた。ローム質土をよく含み、軟性に富む柔らかい土である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器28点、Uフレイク1点、剥片9点、たたき石1点、原石1点、礫14点の計54点出土し、このうち坑底面からは剥片1点、礫1点が出土した。

付属遺構 土坑の中央よりやや西側から小土坑(P P)1基を検出した。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構や遺物から縄文時代前期後半である。

P-64

位置 19R・19S 規模 $1.54 \times 1.22/1.86 \times 1.66/1.23$ m 平面形(坑底面) 不整の円形?

確認・特徴 P-6の調査で北東壁に重複する土坑を確認した。平面の灰黄褐色土のまとまりを精査し、南西側を半載したところ、平坦な坑底面と急角度でオーバーハングし立ち上がり、開口部で開く壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。平面形は開口部が楕円形、坑底面は不整な円形であったと考えられる。

覆土 11層に分けた。主にV層ローム質土が主体の土が堆積している。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器15点、Ⅲ群b類土器1点、スクレイパー1点、剥片24点、たき石1点、北海道式石冠1点、礫20点の計63点出土した。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-65

位置 19N 規模 $0.75 \times 0.59/1.93 \times 2.04/1.05$ m 平面形(坑底面) 円形

確認・特徴 V層面で黒褐色～暗褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定し半載したところ鋭角にオーバーハングし立ち上がる壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。坑底面の平面形は円形、頸部の平面は楕円形で、開口部は削平により欠失する。

覆土 21層に分けた。覆土は全体的にⅢ層土が多く含まれ、黒色を帯びる。頸部の東側はV層を覆土20・21層まで掘り広げられていたと考えられ、覆土19層のぶい黄褐色のローム塊で埋められている。頸部には主にV層ローム質を含む覆土2・4層の土で充填していると考えられる。覆土14層より下位は黒褐色土主体で山形様の堆積があり、頸部より下は山形様の堆積を覆うロームの塊(12層)、覆土5～11層までの黒褐色から黄褐色までの土が堆積している。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底の中心部でわずかに逆くの字状に折れている溝状遺構(PD)1か所がある。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器26点、剥片36点、磨製石斧1点、扁平打製石器1点、加工痕ある礫1点、礫29点の計94点出土した。このうちPD-1から礫3点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

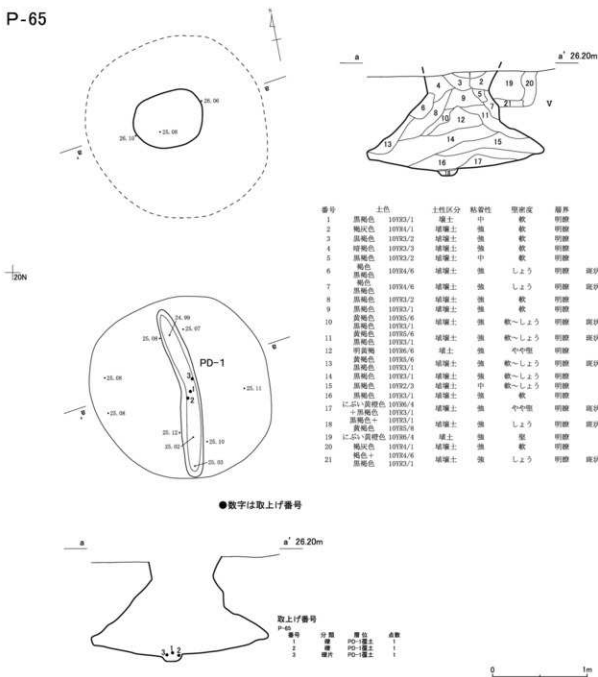
P-66

位置 18N・18O・19N 規模 $(0.70) \times 1.12/2.51 \times 2.38/1.53$ m 平面形(坑底面) 楕円形

確認・特徴 V層面で灰黄褐色～褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と溝状遺構、鋭角にオーバーハングし立ち上がり、頸部でくびれ、開口部に向かい開く壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部の平面形は円形と考えられる。

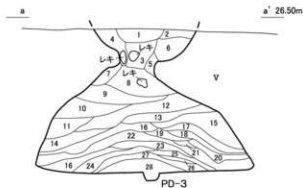
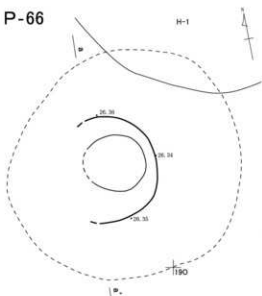
覆土 28層に分けた。覆土は全体的にⅢ層土が多く含まれ、黒色を帯びる。覆土下位の16～28層は坑底中央部が厚く坑底端で薄くなる山形の堆積で、中心部にはぶい黄褐色土が厚く堆積、その上をローム質と黒褐色土がラミナ状に堆積していた。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。頸部から下の覆土8～15層は山形の堆積を覆う土で、主に暗褐色～黒褐色土の、山形堆積よりやや明るい色調の土である。覆土は人為によるものである。開口部から短い頸部までの覆土1～5層は灰黄褐色～褐色土にぶい黄褐色土のV層ローム質土主体の土で充填されている。

P-65



図IV-64 P-65

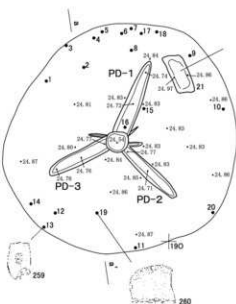
P-66



番号	土色	土性区分	粘着性	垂直度	層界	説明
1	灰黄褐色 10YR4/2	硬礫土	強	やや堅	明瞭	炭化物少量混じる
2	褐色 10YR5/1	硬礫土	強	やや堅	明瞭	炭化物少量混じる
3	褐色 10YR5/1	硬礫土	強	やや堅	明瞭	炭化物少量混じる
4	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭	
5	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬礫土	強	軟	明瞭	
6	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物微量混じる
7	明黄褐色 10YR6/6	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	炭状
8	黄褐色 10YR2/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
9	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
10	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
11	暗褐色 10YR3/4	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
12	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
13	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
14	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
15	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
16	明黄褐色 10YR6/6	硬土+硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	ラミナ状に混じる
17	黄褐色 10YR3/2	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
18	黄褐色 10YR3/2	硬土+硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	ラミナ状
19	黄褐色 10YR5/6	硬礫土	強	軟	明瞭	少量ラミナ状に混じる
20	黄褐色 10YR5/6	硬礫土	強	軟	明瞭	ラミナ状
21	明黄褐色 10YR6/6	硬土+硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	ラミナ状に混じる
22	黒色 10YR1/7	硬土	中	軟	明瞭	
23	暗褐色 10YR3/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
24	黄褐色 10YR2/3	硬礫土	強	軟	明瞭	炭化物少量混じる
25	黄褐色 10YR5/6	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	ラミナ状
26	黄褐色 10YR5/6	硬礫土	強	軟～しろう	明瞭	ラミナ状
27	黄褐色 10YR3/1	硬礫土	強	軟	明瞭	
28	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬土	強	軟	明瞭	

取上げ番号

番号	分類	層号	点数
1	加工品・土器	1	1
2	土	1	1
3	土	1	1
4	土	1	1
5	土	1	1
6	土	1	1
7	土	1	1
8	土	1	1
9	土	1	1
10	土	1	1
11	土	1	1
12	土	1	1
13	土	1	1
14-1	土	1	1
15	土	1	1
16-1	土	1	1
17	土	1	1
18	土	1	1
19	土	1	1
20	土	1	1
21	土	1	1



●数字は取上げ番号

図IV-65 P-66

付属遺構 坑底面の中央に小土坑（PP）1基、そこから3方向に放射状に伸びる溝状遺構3か所（PD-1～3）がある。PP-1からは短い溝状の痕跡が3か所ある。構築時の爪痕のように短い溝を3か所検出した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器87点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、Rフレイク2点、剥片252点、石核1点、磨製石斧1点、たたき石3点、扁平打製石器8点、石皿10点、原石1点、加工痕ある礫1点、礫296点の計665点出土した。坑底面の縁辺にはたたき石や礫（図Ⅳ-65-259・260）、山形堆積の端には被熱した砥石（図Ⅳ-65-261）が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-67

位置 18 O **規模** 0.49 × (0.28) / 2.10 × 2.02 / 1.18 m **平面形(坑底面)** 円形

確認・特徴 V層面で褐色土色のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底とやや鋭角にオーバーハングし頭部ですばまり、やや北東に傾きながら伸びる頭部の壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部は削平により欠失している。

覆土 17層に分けた。頭部の周辺、V層は人為的に動かされたと考えられ、土層断面に覆土16（にぶい黄褐色土）、17層（灰黄褐色土）の乱れがみられる。頭部を掘り広げ、再構築によるものか、フラスコ状土坑と盛土遺構形成に関わる整地によるものと考えられる。頭部の東側に覆土17-1層のPP-1とした土坑様のものがあるが、これは頭部を形成したときのものとして考え、付属土坑の類とした。覆土1～4層までローム質土を多く含む土が頭部に充填されている。覆土12層より下位に中央部が厚く土坑縁辺が薄くなる、山形の堆積があり、覆土8～11層まで山形の堆積を覆っていた。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土は人為によるものである。

付属遺構 頭部の東側に小土坑（PP）1基を検出した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器299点、石鏃1点、両面調整石器2点、スクレイパー3点、Rフレイク4点、Uフレイク2点、剥片433点、石核2点、たたき石1点、扁平打製石器3点、原石4点、礫87点の計841点出土した。坑底面からたたき石と扁平打製石器（図Ⅳ-66-265・266）と剥片、礫が2点と、PP-1からⅡ群b類の円筒土器下層d1式（図Ⅳ-66-187）が出土した。覆土の剥片は接合し、原石素材に復元された（接合資料4）。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-68

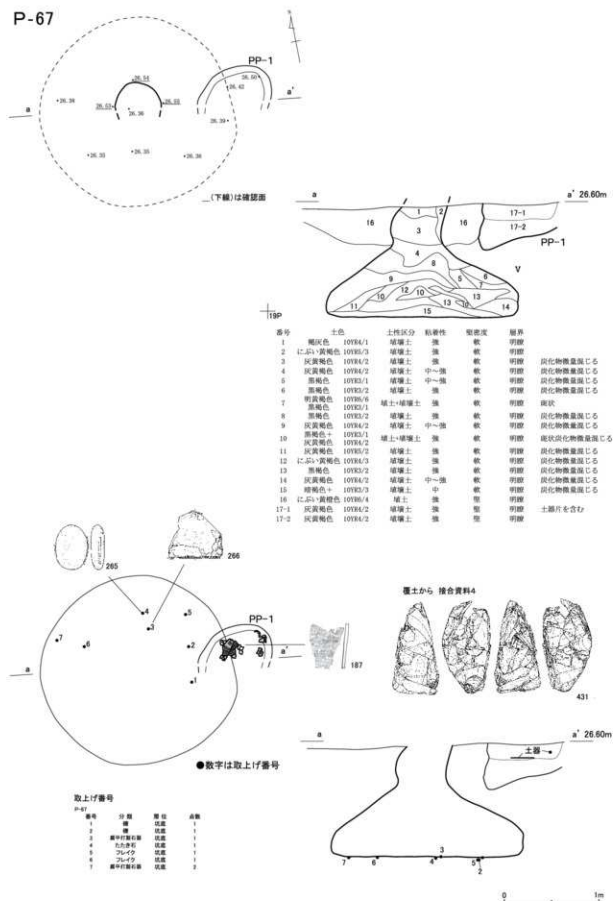
位置 19 Q・19 R **規模** 1.25 × (0.49) / 1.96 × 1.79 / 1.25 m **平面形(坑底面)** 楕円形

確認・特徴 H-2の調査により遺構の存在を確認した。トレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と北側がトンネル状、南側が鋭角にオーバーハングし頭部に向かうすばまり、開口部に向かう開く壁の立ち上がり断面を検出、フラスコ状土坑と認定した。開口部の平面形はトレンチ調査により不明。

覆土 17層に分けた。覆土下位の覆土8層より下は緩やかな山形の堆積があり、頭部より下の覆土5～7層土は山形の堆積を覆っていた。開口部から頭部にかけてにぶい褐色土（1層）にぶい黄褐色土（4層）、明黄褐色土（2層）、灰黄褐色土（3層）が堆積、充填土と考える。開口部の北側にV層を人為的に動かしている痕跡（16・17層）がみられ、PP-1とした。開口部の構築に関係しているものと考えられる。

付属遺構 開口部に小土坑（PP）1基、覆土下位に焼土を多く含む土の広がり（PF-1・2）と炭化物

P-67



図IV-66 P-67

集中を検出した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器263点、石鏃1点、両面調整石器1点、スクレイパー3点、Rフレイク1点、剥片96点、磨製石斧1点、礫75点など計441点出土した。このうち坑底面からⅡ群b類の円筒土器下層c式の破片3点、剥片2点、礫2点が出土した。

時期 坑底からⅡ群b類土器片が出土したことから縄文時代前期後半である。(袖岡)

P-69

位置 22 S・23 S **規模** 1.50 × (0.56) / 2.09 × 2.00 / 1.52 m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 V層上面で黒褐色土のまとまりがみられたため、その東側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部は平面形が楕円形で、坑底面はVI層を50 cm近く掘り込んだ面である。坑底部の北側はP-70とわずかに切りあうが、新旧関係は不明である。付属遺構はない。

覆土 覆土は14層に分層した。覆土1層はⅡ・Ⅲ層主体である。覆土2・4・7層はV層とⅢ層が混じり黒味が強く、覆土8・9・11～14層はV層主体で黄色味が強い。覆土10層はVI層主体の土層である。覆土7層では炭化物が層状にみられる。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器39点、石鏃2点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー3点、剥片72点、石核1点、北海道式石冠2点、礫75点など計206点出土した。Ⅱ群b類土器は摩耗した胴部が多く、細分できない。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-70

位置 22 S **規模** - × - / 2.16 × 2.08 / 1.08 m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 21～23 S区周辺のフラスコ状土坑が密集する範囲のトレンチ調査(P-22に詳細)で、トレンチの断面に底面近くの土層を確認した。土坑中央までトレンチを拡張し、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部の平面形は不明で、坑底面はVI層上面である。坑底部の北東側はP-56、東側はP-39、P-69と切りあうが、新旧関係は不明である。

覆土 覆土は5層に分層した。覆土1～4層はV層主体の明褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土で、最下層の覆土5層はややⅢ層が混じる暗褐色土層である。覆土2・3層は炭化物が少量混じり、固く締まる。覆土4層では炭化物が層状にみられる。

付属遺構 小土坑(P-P)1基と溝状遺構(PD)1か所を坑底面で確認した。P-P-1は坑底面中央よりやや南側にあり、平面形は長径53 cmの楕円形で、深さは10 cmである。PD-1はP-P-1の北側から土坑の北東側の壁際まで伸びる溝状遺構で、規模は長さ1.02 m、最大幅19 cm、深さ5 cmである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器20点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー6点、剥片11点、礫65点など計106点出土した。このうち坑底面の遺物はスクレイパー1点である。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

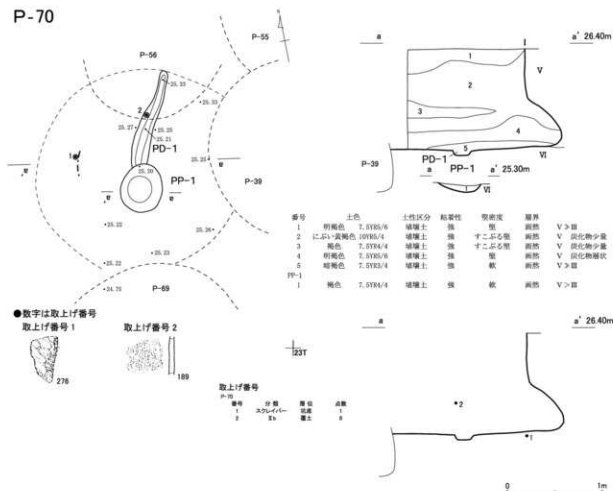
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-71

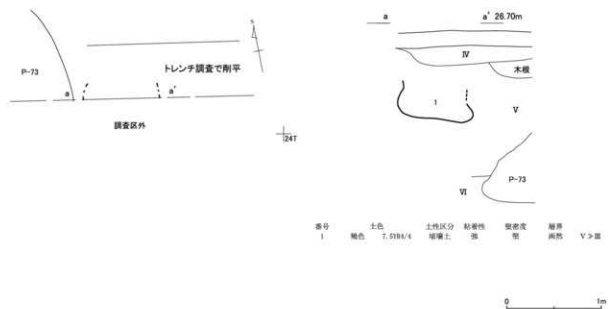
位置 23 S **規模** - × - / - × - / (0.56) m **平面形(坑底面)** 不明

調査・特徴 調査区南境のP-73調査時に開口部周囲をトレンチ状に全体に掘り下げていたところ、P-73東側で土器がまとまって出土した。遺構と考え、その周辺を精査し、調査区南側の土層断面を観察した

P-70

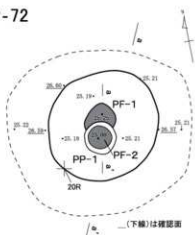


P-71



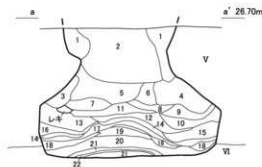
図IV-68 P-70・P-71

P-72



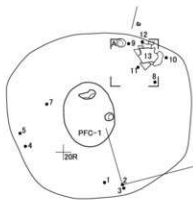
(下線)は複断面

a' 25.30m



番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層厚	
1	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬羅土	強	やや硬	明瞭	
2	灰黄褐色 10YR4/2	硬羅土	強	やや硬	明瞭	炭化物微量混じる
3	黒褐色 10YR3/2	硬羅土	強	やや硬	明瞭	
4	黒褐色 10YR3/2	硬羅土	強	やや硬	明瞭	
5	暗褐色 10YR3/3	硬羅土	強	やや硬	明瞭	炭化物・焼土粒微量混じる
6	にぶい黄褐色 10YR4/3	硬羅土	強	軟	明瞭	
7	明黄褐色 10YR6/6	埴土	強	軟	明瞭	
8	にぶい赤褐色 5YR4/4	硬羅土	強	軟	明瞭	炭化物微量混じる
9	明黄褐色 10YR6/6	埴土	強	軟	明瞭	
10	黒褐色 10YR3/2	硬羅土	強	やや硬	明瞭	
11	赤褐色 5YR4/6	硬羅土	強	軟	明瞭	炭化物微量混じる
12	にぶい黄褐色 10YR5/4	硬羅土	強	軟	明瞭	焼土粒微量含む
13	にぶい黄褐色 10YR5/3	硬羅土	強	軟	明瞭	炭化物・焼土粒微量混じる
14	黒褐色 10YR3/1	硬羅土	強	軟	明瞭	炭化物微量混じる
15	赤褐色 5YR4/6	硬羅土	強	軟	明瞭	
16	赤褐色 5YR4/6	硬羅土	強	軟	明瞭	
17	褐色 10YR4/1	硬羅土	強	軟	明瞭	炭化物微量混じる
18	明黄褐色 10YR6/6	埴土	強	軟	明瞭	
19	褐色 10YR4/4	硬羅土	強	軟	明瞭	
20	褐色 10YR2/1	埴土	強	軟	明瞭	
21	灰黄褐色 10YR4/2	硬羅土	強	軟	明瞭	
22	暗褐色 10YR3/4	硬羅土	強	軟	明瞭	

PP-1	梅田赤褐色 5YR2/4	硬羅土	中	軟	明瞭	炭化物・焼土粒少量混じる
2	暗赤褐色 2.5YR2/6	硬羅土	中	軟	明瞭	炭化物少量混じる



●数字は取上げ番号

取上げ番号

P-72

番号	分層	層厚	点数
1	フレイク	炭層	1
2-1	炭層	炭層	1
2-2	炭層	炭層	1
4	フレイク	炭層	1
3-1	炭層	炭層	1
3-2	炭層	炭層	2
4	フレイク	炭層	1
2-2	炭層	炭層	1
2-3	炭層	炭層	1
8	フレイク	焼土下位	1
9	フレイク	焼土下位	1
10	フレイク	焼土下位	1
11	炭層	焼土下位	1
12	炭層	焼土下位	1
13	2b	焼土下位	158

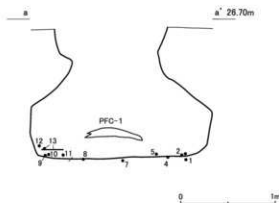
複合資料 12 (写真のみ掲載) 439



土器出土状況



0 50cm



0 1m

図IV-69 P-72

ところ、小型のフラスコ状土坑の土層断面を見つけたため、遺構番号を付けた。遺構の大部分は南側の調査区外にあり、遺構の様相は不明である。

覆 土 覆土は褐色土である。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器233点、石鏃1点、剥片159点、礫66点など計464点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式の胴部～底部の破片で、被熱し、焼け弾けがみられる。

時 期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

P-72

位 置 19Q・19R・20Q・20R **規 模** 1.22×1.11/2.03×1.84/1.42m **平面形(坑底面)** 楕円形
確認・特徴 H-2の南側に土坑の存在を確認した。半載したところ、平坦な坑底面と直角気味に立ち上がり、途中から頸部に向かうすばまり、開口部でやや開く壁の立ち上がりを検出し、フラスコ状土坑と認定した。平面形は坑底が楕円形、開口部は円形である。

覆 土 22層に分けた。覆土下位の14・17～22層は坑底中央部が厚く坑底縁辺で薄くなる山形の堆積がみられる。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。山形の堆積土中の19層は褐色土で、剥片集中(PFC-1)を検出した。頸部より下の覆土3～13・15・16層は山形堆積を覆う土が堆積しており、覆土15・16層は焼土や炭化物を含む土である。開口部から頸部までは灰黄褐色土(2層)、にぶい黄褐色土(1層)が充填されている。覆土は人為によるものである。

付属遺構 小土坑(P P)1基、焼土(P F)1カ所、剥片集中(P F C)1カ所を検出した。

P P-1は坑底面のほぼ中央にあり、その北側に焼土を多く含む土層P F-1がある。P P-1覆土下位にはP F-1と同様の焼土主体の土が入っていた。焼土は坑底面やP P-1の壁と画然として分けられ、持ち込まれたものである。P F-1から出土した炭化物(Kor-24)は採取し、放射性炭素年代測定と樹種同定をおこなった。樹種はクリという結果が得られた(付篇参照)。P F C-1は山形の堆積の19層中にみられた。剥片が多数接合し、原生素材まで復元された(接合資料12写真図版)。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器305点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、石鏃1点、スクレイパー2点、剥片3,145(うちP F C-1は2,985)点、石核2点、扁平打製石器2点、原石1点、加工痕ある礫1点、礫264点の計3,726点出土した。土坑北側の覆土下位ではⅡ群b類の円筒土器下層c式がまとまって出土した。

時 期 覆土下位からⅡ群b類土器が出土したことから縄文時代前期後半である。P F-1出土の炭化物(Kor-24)で放射性炭素年代測定を行ったところ、4,760±30yrBPという結果が得られた(付篇参照)。(袖間)

P-73

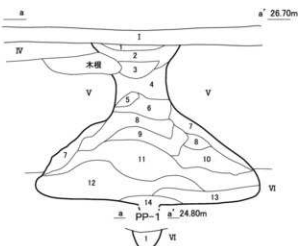
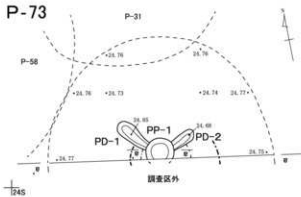
位 置 23S **規 模** 0.94×-/2.40×(1.30)/1.70m **平面形(坑底面)** 円形?

調査・特徴 調査区南側境をトレンチ調査中、土層断面と遺構の輪郭を確認した。さらにトレンチを掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。南側半分は調査区外で、北側半分を調査したことになる。坑底面はVI層を40cm掘り込んだ面である。

覆 土 覆土は14層に分層した。覆土1層はIV層主体、覆土3層は焼土層である。覆土4～7・11～14層はV層主体で、覆土5層と最下層の覆土14はやや黒味が強い。覆土8～10層はVI層主体である。覆土7・8層には炭化物が極少量混じる。

付属遺構 小土坑(P P)1基と溝状遺構(P D)2カ所を坑底面で確認した。P P-1は坑底面中央付近

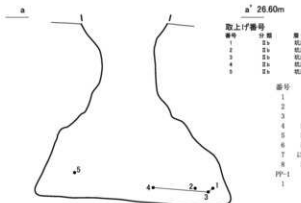
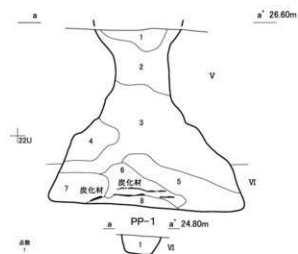
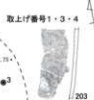
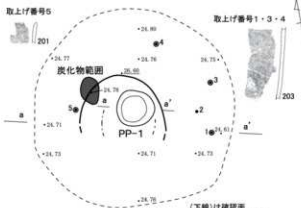
P-73



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	暗褐色 7.5B3/3	埴壇土	強	堅	IV
2	暗褐色 7.5B3/4	埴壇土	強	堅	IV > III
3	にぶい・暗褐色 5B3/4	埴壇土	強	堅	V 埴土
4	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	V > III
5	暗褐色 7.5B3/3	埴壇土	強	堅	III > V
6	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	V > III
7	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量
8	明褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V 炭化物少量
9	黄褐色 10B5/6	埴壇土	強	堅	V
10	黄褐色 10B5/6	埴壇土	強	堅	V
11	明黄褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V
12	明褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V > III
13	明褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V
14	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	IV > III
PP-1	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	IV > III

P-74

取上げ番号5



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	暗褐色 10B3/3	埴壇土	強	堅	IV - IV 炭化物少量
2	褐色 7.5B4/4	埴壇土	強	堅	V > III 炭化物少量
3	明褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V > III 炭化物少量
4	にぶい・褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量
5	にぶい・褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量
6	にぶい・褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量
7	にぶい・黄褐色 10B4/3	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量
8	にぶい・褐色 7.5B5/6	埴壇土	強	堅	V
PP-1	褐色 7.5B4/6	埴壇土	強	堅	IV > III 炭化物少量

図IV-70 P-73・P-74

に位置し、平面形は直径 30 cm の円形で、深さは 20 cm、底面は平坦である。PD-1・2 は PP-1 から北西側と東側に伸びる溝状遺構で、北西側が PD-1、東側が PD-2 である。PD-1 は長さ 39 cm、PD-2 は長さ 27 cm で、いずれも他の溝状遺構に比べ短いものである。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群 b 類土器 34 点、剥片 14 点、礫 57 点など計 112 点出土した。Ⅱ群 b 類土器は円筒土器下層 d 1 式の胴部・底部破片である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-74

位置 21 T・22 T **規模** 0.93 × (0.52) / 2.21 × 2.17 / 1.95 m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 V 層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。坑底面は VI 層を 50 cm 程掘り込んだ面で、土坑の深さは 1.95 m と深い。覆土下位では炭化物のまとまりがみられ、採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。

覆土 覆土は 8 層に分層した。最上位の覆土 1 層がⅢ・Ⅳ層主体、それ以外は V 層主体の土層である。覆土下位の覆土 5 ～ 8 層は中央が高い山形の堆積で、覆土 6 ～ 8 層の中央部分では炭化物が層状にみられた。

付属遺構 小土坑 (PP) 1 基を坑底面中央で確認した。平面形は長径 41 cm の楕円形で、深さは 22 cm で、底面は平坦である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群 b 類土器 188 点、剥片 53 点、たたき石 2 点、北海道式石冠 1 点、礫 113 点など計 358 点が出土した。このうち坑底面からは円筒土器下層 d 2 式破片が 27 点出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-75

位置 21 P **規模** 0.52 × (0.34) / 1.72 × 1.57 / 1.11 m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 V 層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、南側をトレンチ状に掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。付属遺構はない。

覆土 覆土は 6 層に分層した。いずれも V 層主体で、色調は覆土 1・2・6 層が褐色土、覆土 3・4 層がにぶい黄褐色土、覆土 5 層が暗褐色土層である。覆土 5 層には炭化物が少量混じる。

遺物出土状況 遺物は覆土・覆土下位からⅡ群 b 類土器 53 点、スクレイパー 1 点、剥片 78 点、礫 78 点など 211 点出土した。Ⅱ群 b 類土器は円筒土器下層 d 1 式で、小破片が多い。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(愛場)

P-76

位置 18 Q **規模** 1.01 × (0.78) / 1.81 × (1.27) / 1.01 m **平面形(坑底面)** 円形?

確認・特徴 P-41 のトレンチ調査により重複するフラスコ状土坑の断面を確認した。坑底面は平坦で、坑底面中央には小土坑と溝状遺構、焼土を検出した。壁はオーバーハングし短い頸部でくびれ、やや開き気味の開口部につながる。

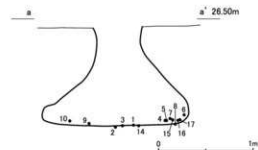
覆土 6 層に分けた。坑底直上には焼土を含む極暗赤褐色土があり、その上を黒褐色土が堆積、それより上はにぶい黄褐色、明黄褐色、灰黄褐色土のローム質土を多く含む土が堆積していた。

付属遺構 小土坑 (PP) 1 か所と、溝状遺構 (PD) 2 か所、焼土 (PF) 1 か所を検出した。PP-1 は坑底面のほぼ中央にあり、そこから北西側 (PD-1) と南側 (PD-2) へ溝状遺構が壁際まで伸びる。PF-1 は PD-2 の底面南端にみられるものである。

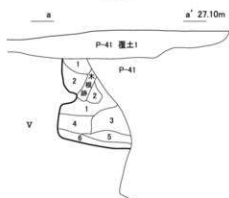
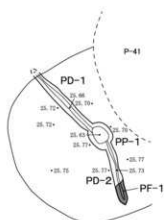
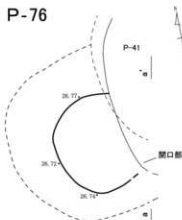
P-75



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界	
1	褐色 10YR4/4	埴壤土	強	型	自然	V>III 炭化物少量
2	褐色 10YR4/6	埴壤土	強	型	自然	V 炭化物少量
3	にぶい黄褐色 10YR4/3	埴壤土	強	型	自然	V>III 炭化物少量
4	にぶい黄褐色 10YR4/3	埴壤土	強	型	自然	V>III 炭化物少量
5	暗褐色 10YR2/3	埴壤土	強	軟	自然	V>III 炭化物少量
6	褐色 10YR4/4	埴壤土	強	軟	自然	V>III



P-76



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界
1	灰黄褐色 10YR4/2	埴壤土	強	軟	明確
2	にぶい黄褐色 10YR5/3	埴壤土	強	軟	明確
3	明黄褐色 10YR6/6	埴土	強	軟	明確
4	にぶい黄褐色 10YR6/4	埴土	強	軟	明確
5	黄褐色 10YR2/3	埴壤土	強	軟	明確
6	暗褐色褐色 5YR2/4	埴壤土	強	軟	明確

炭化物 0.5.5cm1%含む

炭土粒を含む

<P-77: 欠番>

図IV-71 P-75・P-76

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器37点、剥片19点、礫14点の計70点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

(袖岡)

P-77: 欠番

P-78

位置 23R **規模** $0.93 \times (0.48) / 2.62 \times 2.52 / 1.55$ m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 V層上面で、周囲とはやや色調の違う褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。開口部の平面形は円形で、坑底面はVI層を30 cm以上掘り込んだ面である。

覆土 覆土は17層に分層した。覆土5・12・13層はVI層土が主体で、それ以外は褐色や明褐色土のV層主体である。覆土2～4・7・9・11・12・15・17層は炭化材が極少量混じり、覆土4・8・10層には焼土粒が混じる。覆土下位は中央が高い山形の堆積で、覆土15層と最下層の覆土17層はやや黒味が強い土層である。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面中央で確認した。平面形は長径60 cmの楕円形で、深さは14 cm、断面形は皿状である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器113点、剥片62点、石核6点、たたき石1点、すり石1点、砥石1点、礫164点など計352点である。このうち坑底面ではたたき石1点、加工痕ある礫1点、原石2点、礫13点の計17点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式と円筒土器下層d1式がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-79

位置 21O・21P **規模** $2.15 \times 1.49 / 1.73 \times 0.92 / 0.40$ m **平面形** 楕円形

調査・特徴 V層上面で黒褐色土の楕円形のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。平坦な坑底面と斜めに立ち上がる壁を確認し、土坑と判断した。

覆土 覆土は4層に分層した。中央付近の上位から下位の覆土1層は、Ⅱ・Ⅲ層主体の黒褐色土層で、坑底直上や壁際はV層主体土層である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器56点、筥状石器1点、剥片16点、石核2点、礫22点の計97点が土坑全体から散漫に出土した。坑底面の遺物はⅡ群b類土器1点と筥状石器1点である。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d2式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

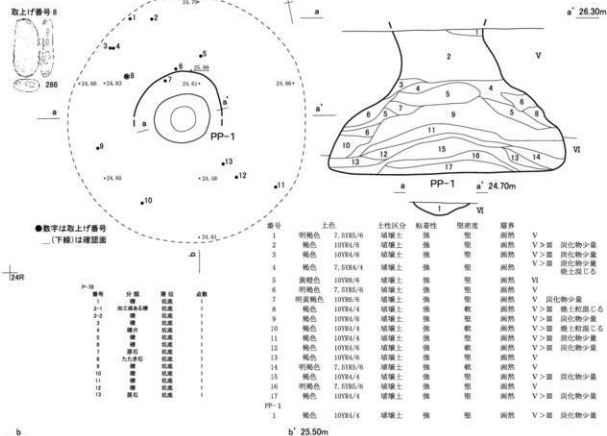
P-80

位置 20O・21O **規模** $1.46 \times 1.08 / 1.39 \times 1.33 / 0.53$ m **平面形(坑底面)** 円形

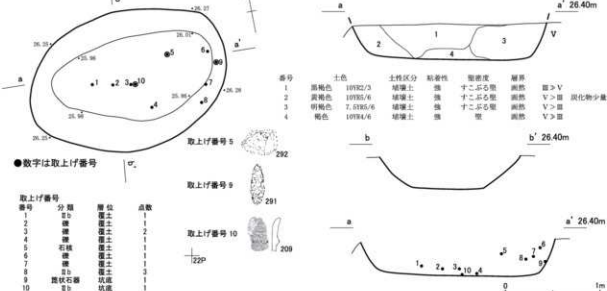
調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。平坦な坑底面と直立気味に立ち上がる壁を確認したため土坑と判断し、その後北側の壁がオーバーハングし、小土坑に伴うことからフラスコ状土坑とした。

覆土 覆土は4層に分層した。覆土1層はⅢ層主体の暗褐色土層で、それ以外はV層主体土層である。覆土1～3層は固く締まる。

P-78



P-79



図IV-72 P-78・P-79

付属遺構 小土坑（P P）1基を坑底面中央より北東側で確認した。平面形は直径16 cmの円形で、深さは15 cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器1点、剥片1点の計2点出土と、非常に少ない。Ⅱ群b類土器は胴部の小破片で、掲載していないが、燃糸文が縦位に施されている。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-81

位置 21 N・22 N **規模** 1.31 × (0.73) / 2.26 × 2.12 / 2.28 m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側をトレンチ状に掘り下げ、土層断面からフラスコ状土坑と判断した。本遺構は深さ2 mを超えそうであったため、土坑上位を記録・調査した後、上位部分周囲を広く1 m程全体に掘り下げてから土坑下位の調査を行うなど、トレンチの壁が2 mを超えないように調査を行った。坑底面はⅥ層を約1 m掘り込んだ面で、土坑の深さは2.28 mと遺跡の中で最も深い。付属遺構はない。

覆土 覆土は15層に分層した。覆土1・3層はⅢ層主体、覆土2・4・5・9～13層はⅤ層主体、覆土6～8・14・15層はⅥ層が主体である。覆土8層より下位は、概ね褐色土層と暗褐色土層の互層である。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器45点、スクレイパー1点、剥片12点、石核1点、たたき石2点、すり石1点、礫56点など計119点出土した。このうち坑底面の遺物はⅡ群b類土器2点、礫1点と少ない。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d 2式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

(愛場)

P-82

位置 21 L・21 M・22 L・22 M **規模** 1.50 × (0.57) / 2.16 × 2.10 / 1.24 m **平面形(坑底面)** (円形)

確認・特徴 V層面で黒褐色～灰黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定しトレンチ調査を行ったところ、平坦な坑底面と直角に立ち上がり、途中から急角度ですばまり、頸部から開口部へ向かい広がる壁の断面を検出し、フラスコ状土坑と認定した。開口部の平面形はトレンチにより南半部が不明だが、円形とみられる。覆土の炭化物集中と焼土検出の炭化物は採取し、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。

覆土 24層に分けた。覆土下位の覆土13～24層は中心部が厚く縁辺が薄くなる山形の堆積がみられる。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。山形堆積の中からは炭化物集中と焼土ブロック（P F-1）を検出した。覆土6・7・10層は壁面から崩れた土、覆土8・9・11層は山形堆積を覆う土、覆土3・4・5層は頸部から開口部を充填している土と考える。覆土1層は遺構の落ち込みに堆積したⅢ層土とみられる。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底面の中央よりやや北側に小土坑（P P-1）、覆土下位から焼土（P F-1）、炭化物集中を検出した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器448点、石鏃1点、石錐1点、スクレイパー3点、剥片110点、石核1点、たたき石1点、原石1点、礫38点の計604点出土した。覆土下位の山形の堆積中で円筒土器下層d 1式のまとまりを検出し、台付土器が復元された（図V-21～213）。炭化物集中の上面からはたたき石（図IV-74～298）が出土している

時期 覆土下位からⅡ群b類土器が出土したことから縄文時代前期後半である。炭化物集中と焼土検出の炭化物で放射性炭素年代測定を行ったところ、炭化物集中（Kor-25）が4,720yrBP、P F-1焼土（Kor-26）が4,730yrBPという結果が出た（付篇参照）。

P-83

位置 22 I 規模 $1.38 \times (0.81) / 1.88 \times 1.65 / 0.83$ m 平面形 (坑底面) 楕円形

確認・特徴 MB下位のIV層下位～V層面で黒褐色土のまとまりを確認した。遺構であることが想定されたため、トレンチ調査と並行し黒褐色土を掘り下げたところ、平坦な坑底面とオーバーハングし立ち上がり、頭部ですばまり開口部で開く壁を検出し、フラスコ状土坑と認定した。MBとの新旧関係は不明である。

覆土 21層に分けた。覆土下位の覆土18～21層は中央部が厚く坑底縁辺が薄くなる山形の堆積がみられる。流動性の低い土が坑口などの高いところから入れられ、安息角が生じ円錐形に堆積した土の断面である。覆土中位の覆土10～17層は山形堆積を覆う土で、覆土8・9層は壁面から崩れた土と考えられる。覆土3・4・6・7層は開口部から頭部に堆積し、覆土上面の覆土1・2層は開口部のくぼみに堆積したIII層である。覆土は人為によるものである。

付属遺構 坑底面の中央に小土坑(PP)1基、その南側に焼土を多く含む暗赤褐色土(PF)1か所を検出した。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器8点、Rフレイク1点、剥片23点、扁平打製石器1点、原石1点、加工痕ある礫1点、礫40点の計75点出土した。II群b類土器は円筒土器下層c式と円筒土器下層d2式がある。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-84

位置 22 I・22 J 規模 $1.63 \times 1.33 / 1.50 \times 1.23 / 0.66$ m 平面形 楕円形

確認・特徴 MB下位のIV層下位～V層面に黄褐色～灰黄褐色～黒褐色土のまとまりを確認した。土坑であることが想定されたため半載したところ、平坦な坑底面と小土坑、ほぼ直角に立ち上がる壁を検出し、土坑と認定した。坑底面の平面形は楕円形である。MBとの新旧関係は不明である。

覆土 9層に分けた。覆土7層はV層ローム質土が多く含む灰黄褐色土で、覆土1・7層を除き黒褐色土が多い。

付属遺構 坑底面の中央に小土坑(PP)1基と、P-1の北東側(PD-1)と南西側(PD-2)に溝状遺構を検出した。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器3点、スクレイパー1点、剥片27点、礫26点の計57点出土した。

土器は小破片のため未掲載だが、横位縄線文、縦位の燃糸文が確認できる。

遺物は覆土中の剥片・礫を中心に57点出土した。

時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。

P-85

位置 20 P 規模 $3.03 \times 1.89 / 2.78 \times 1.65 / 0.65$ m 平面形 (坑底面) 不整の楕円形

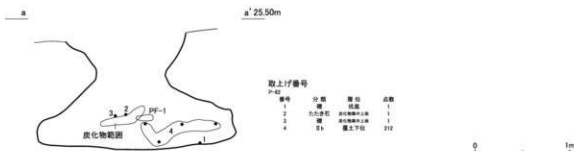
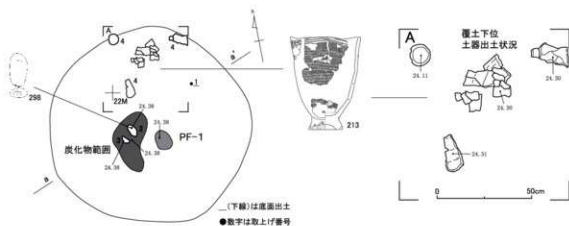
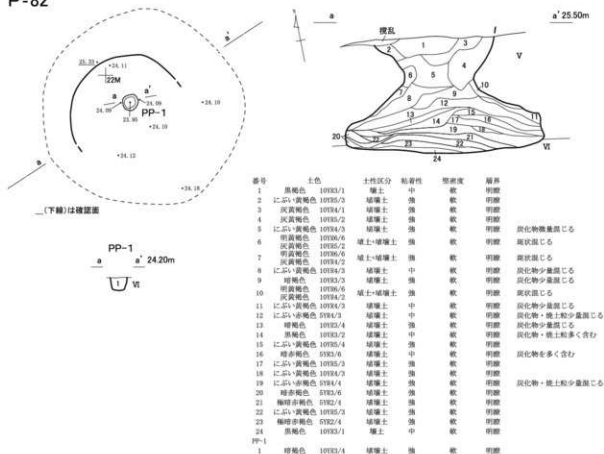
確認・特徴 包含層調査でV層上面に黄褐色～褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定し半載したところ概ね平坦な坑底面と急で明瞭な壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。

覆土 9層に分けた。自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器2点、剥片13点、加工痕ある礫1点、礫9点の計25点出土した。土器は小破片で細分できなかった。

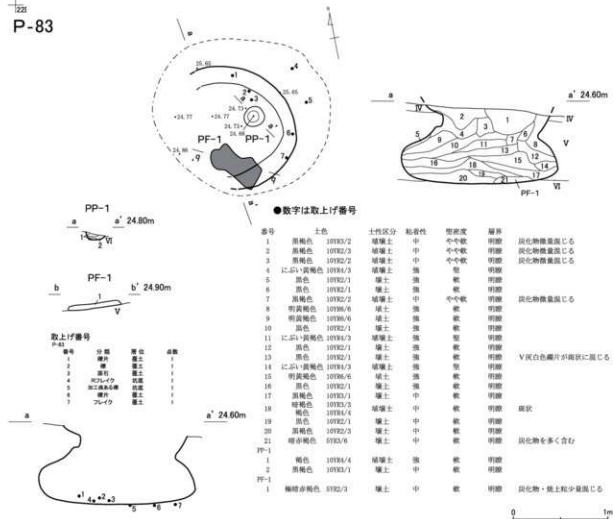
時期 時期を判断する遺物の出土は無いが、周辺の遺構・遺物から縄文時代前期後半である。(袖岡)

P-82

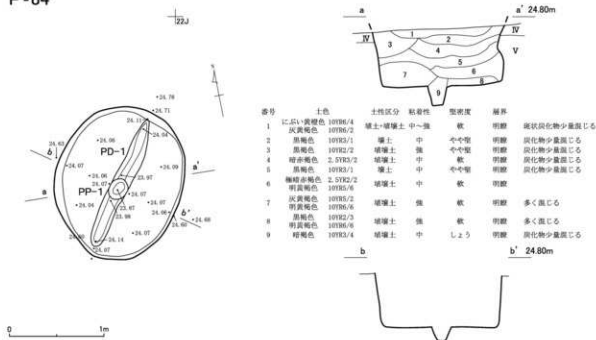


図IV-74 P-82

122
P-83

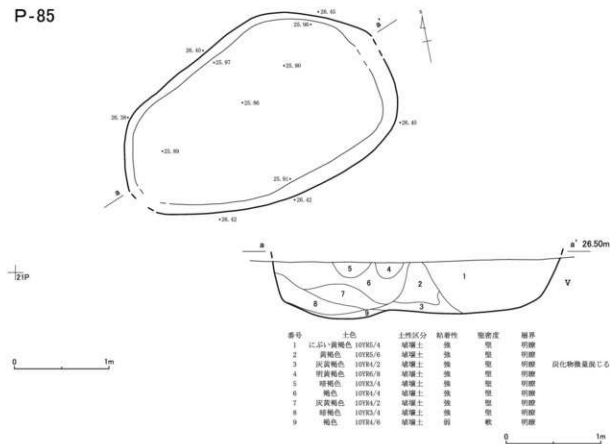


P-84

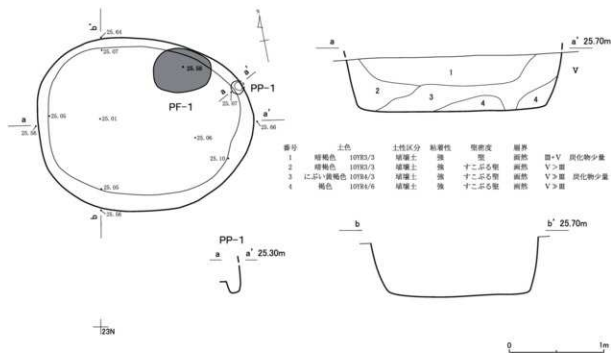


図IV-75 P-83・P-84

P-85



P-86



図IV-76 P-85・P-86

P-86

位置 22 M・22 N 規模 2.30 × 1.83/2.04 × 1.55/0.64 m 平面形 楕円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土の楕円形のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。平坦な坑底面と直立気味に立ち上がる壁を確認したため土坑と判断した。

覆土 覆土は4層に分層した。覆土1層はⅢ層主体の暗褐色土、覆土2～4層はV層主体の暗褐色土、にぶい黄褐色土、褐色土である。覆土2～4層は固く締まる。

付属遺構 覆土上位で焼土(PF)1か所、坑底面で杭穴状の小土坑(PP-1)を確認した。PF-1は土坑の北東壁付近の覆土3層上位でみられた。PP-1は土坑東側の壁際にあり、平面形が直径15 cmの円形で、深さは12 cmの柱穴状の小土坑で、底面は平坦である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器76点、剥片40点、たたき石1点、礫23点の計140点出土した。Ⅱ群b類土器は横位や縦位の沈線文で文様が構成されており、円筒土器下層b式?の可能性もある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-87

位置 22 N 規模 1.00 × (0.34) / 1.55 × 1.45/0.74 m 平面形(坑底面) 不整の円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土、褐色土がみられる風倒木があり、これを掘り下げたところ、平坦な底面と小土坑を確認した。土坑と判断し、壁側を掘り広げると壁がオーバーハングしたため、フラスコ状土坑と判断した。坑底面は被熱し、やや赤みがかかる。土層断面図は作成できなかった。坑底部西側はP-94と切りあうが新旧関係は不明である。

付属遺構 小土坑(PP)1基を坑底面の西側の壁際近くで確認した。平面形は長径29 cmの楕円形で、深さは15 cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器40点、剥片16点、たたき石1点、礫43点の計100点出土した。Ⅱ群b類土器は胴部や底部片が主体で細分できなかった。掲載した底部片はP-95と接合した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

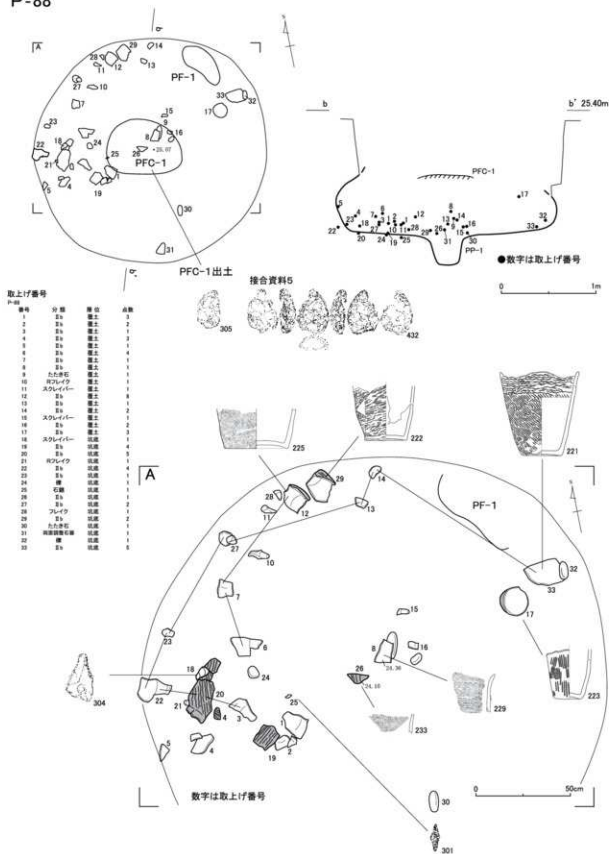
P-88

位置 20 L・21 L 規模 1.29 × 1.22/2.54 × 2.39/1.24 m 平面形(坑底面) 円形

調査・特徴 V層上面で焼土を伴う褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面形状からフラスコ状土坑と判断した。頸部はやや広く、坑底面へと強く張り出す形状である。直線的覆土中位から剥片集中が検出され、それ以下の覆土5層から坑底面までは遺物が多く出土した。坑底面直上の焼土から検出した炭化材は採取し、樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。

覆土 覆土は12層に分層した。覆土1層はV層が被熱した褐色土層、覆土2～4・9層はV層主体層、覆土5～8・10～12層はⅢ層主体の暗褐色土層である。覆土2～4層は固く締まる。覆土下位の10～12層は炭化物が多く混じり、PF-1が覆土11層の北東側でみられた。

付属遺構 覆土から焼土(PF)1か所と剥片集中(PFC)1か所、坑底面では小土坑(PP)1基と溝状遺構(PD)4か所を確認した。PF-1は土坑の北東壁の坑底面直上で検出した。PFC-1は土坑中央付近の覆土2層下位検出で、剥片の一部は接合し、中空の原石が還元された(接合資料5)。PP-1は土坑中央からやや西側にあり、平面形は直径38 cmの円形で、深さは30 cmと深い。PP-1からは東側(PD-1)、北西側(PD-2)、北側(PD-3)、南西側(PD-4)の壁際へ溝状遺構が伸びる。いずれもやや曲線的である。



図IV-78 P-88(2)

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器509点、石鏃3点、石錐1点、両面調整石器4点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー8点、剥片7,038（うちPFC-1から6,676）点、石核2点、磨製石斧1点、たたき石8点、砥石1点、礫84点など計7,674点出土した。これら遺物は覆土5層以下から多く出土し、北側にやや多く分布する。土坑北東側の壁際の覆土5層上部では土器（図V-22-223）が正立した状態で出土した。坑底面の遺物はⅡ群b類土器24点、石鏃1点、両面調整石器1点など少ない。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層b～c式と考える。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-89

位置 22M・23M **規模** 1.18×- / 2.02×1.92/1.10m **平面形（坑底面）** 円形

調査・特徴 V層上面で中央に焼土がある暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げた。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑西側はS P-140と切りあいがあり、本遺構が古いことが分かったため、S P-140を調査後、北側を掘り下げた。上位の覆土3層からは長さ6～8cmの棒状礫が7本まとまって出土した。また下位の覆土7層からは土器を中心として遺物が多く出土した。

覆土 覆土は8層に分層した。最上位の覆土1は覆土3層が漸移的に被熱した赤褐色焼土PF-1で、覆土2はⅢ・Ⅳ層主体の暗褐色土層である。覆土上位から中位の覆土3・4・6層と最下層の覆土8層はV層主体の明褐色土や褐色土層、覆土中位から下位の覆土5・7層はⅢ層主体の暗褐色土層である。最下層の覆土7層は厚く堆積する。

付属遺構 焼土（PF）1か所を検出面で、小土坑（PP）1基を坑底面の中央で確認した。P P-1は平面形が直径31cmの円形で、深さは12cmである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器282点、石鏃1点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器1点、つまみ付きナイフ1点、剥片118点、石核3点、たたき石1点、礫75点など計489点出土した。上位の覆土3層で棒状礫のまとまりがみられ、下位の覆土7層では土器や礫などの遺物が多く出土した。坑底面の遺物は剥片1点のみである。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-90

位置 22L **規模** 1.04×(0.48) / 1.36×1.30/1.08m **平面形（坑底面）** 円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑断面は開口部と坑底面の径がほぼ同じで、中央がややくびれる形状である。付属遺構はない。

覆土 覆土は6層に分層した。覆土上位～中位はV層とⅢ層が混ざる覆土1層が厚く堆積する。覆土中位にはⅢ層主体の覆土2・3層、その下位にはV層主体の覆土4層、最下層にはⅢ層主体の覆土5・6層がそれぞれ平坦に堆積する。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器18点、つまみ付きナイフ1点、剥片14点、すり石2点、石鋸1点、礫25点など計62点出土した。Ⅱ群b類土器は小破片で、未掲載だが、円筒下層d2式土器の可能性はある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-91

位置 21 L 規模 $1.11 \times (0.59) / 2.20 \times (1.92) / 1.04$ m 平面形(坑底面) 円形?

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状から頸部より上面が削平されるフラスコ状土坑と判断した。坑底面で小土坑(P P)を確認し、周辺を精査すると西側にさらに小土坑を確認した。土坑西側は攪乱されていたが、攪乱土を取り除くと別の土坑があることがわかり、本遺構の西側をP-97とし、西側で確認した小土坑もP-97に伴うものとした。切りあい部分は攪乱の影響を受けており、新旧関係は不明である。

覆土 覆土は7層に分層した。覆土上位の覆土1~3層はV層主体、覆土中位から下位の覆土4・5・7層はIII層主体の暗褐色土、P-97側の下位の覆土6層はV層主体である。覆土5層は焼土が混じる土層でやや赤みがかり、覆土1・6層は固く締まる。

付属遺構 小土坑(P P)1基を坑底面の中央で確認した。平面形は直径58 cmの不整の円形で、深さは10 cm、断面は皿状である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からII群b類土器233点、石鏃2点、石槍・ナイフ1点、両面調整石器2点、剥片63点、石核4点、たたき石1点、砥石1点、礫24点など計335点出土した。II群b類土器は小破片が多いが、文様から円筒土器下層c式と円筒土器下層d1式がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-92

位置 22 K・22 L 規模 $1.35 \times (0.82) / 1.95 \times 1.87 / 1.00$ m 平面形(坑底面) 円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状から開口部が広いフラスコ状土坑と判断した。土坑上面は削平されている可能性があり、付属遺構はない。

覆土 覆土は10層に分層した。覆土上位の覆土1・3・4層はIII層主体の暗褐色土層、覆土上位から中位の覆土2・5~8層はV層主体のにぶい黄褐色土や褐色土層、覆土下位の覆土9・10層はV層主体の暗褐色土層である。最下層の覆土10層は平坦に堆積する。

遺物出土状況 遺物はII群b類土器2点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー1点、剥片17点、たたき石1点、礫31点の計53点出土した。II群b類土器は摩耗した胴部の小破片で未掲載だが、多軸絡条体が観察され、内面が磨かれているため円筒土器下層d2式の可能性がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-93

位置 23 K・23 L 規模 $1.00 \times (0.58) / 1.61 \times 1.49 / 1.24$ m 平面形(坑底面) 円形

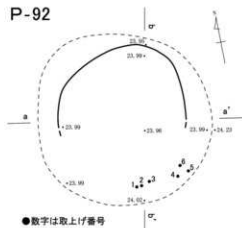
調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南西側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。覆土中位の覆土3~4層からは土器や礫などの遺物が多く出土した。

覆土 覆土は9層に分層した。覆土3・8層はV層主体だが、それ以外はIII層主体、もしくはIII層とV層が混じる暗褐色土、黒褐色土層が多くを占める。覆土2・5~7層は炭化物が少量混じり、覆土8層は中間に炭化物が層状にみられる。覆土下位の覆土5~9は中央が高い山形の堆積である。

付属遺構 小土坑(P P)1基を坑底面中央付近で確認した。平面形は長径27 cmの楕円形で、深さは12 cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土からII群b類土器216点、石槍・ナイフ1点、剥片24点、石核2点、たたき石2点、礫46点、石製品1点など計295点出土した。遺物は覆土中位以下からの出土が多く、土器や礫石器、

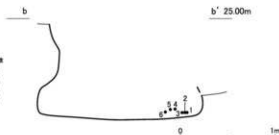
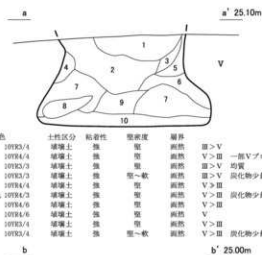
P-92



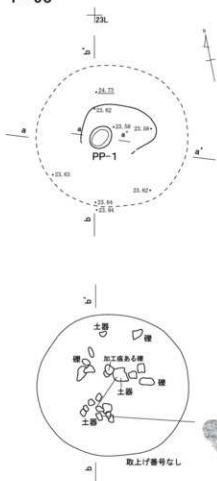
番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚	層厚
1	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底
2	褐色	10YR4/4	硬凝土	強	底	底
3	暗褐色	10YR5/3	硬凝土	強	底	底
4	暗褐色	10YR5/3	硬凝土	強	底	底
5	褐色	10YR4/4	硬凝土	強	底	底
6	にぶい黄褐色	10YR6/3	硬凝土	強	底	底
7	褐色	10YR4/6	硬凝土	強	底	底
8	褐色	10YR4/6	硬凝土	強	底	底
9	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底
10	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底

取上げ番号

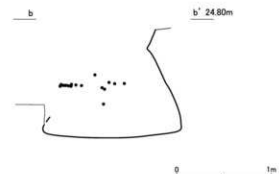
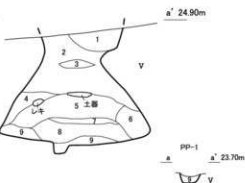
番号	分層	層厚	点数
1	層	底	1
2	層	底	1
3	層	底	2
4	層	底	1
5	層	底	1
6	層	底	1



P-93



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層厚	層厚
1	暗褐色	10YR5/3	硬凝土	強	底	底
2	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底
3	褐色	10YR4/6	硬凝土	強	底	底
4	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底
5	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底
6	暗褐色	10YR5/3	硬凝土	強	底	底
7	黄褐色	~3/4	硬凝土	強	底	底
8	黄褐色	10YR2/3	硬凝土	強	底	底
9	暗褐色	10YR5/4	硬凝土	強	底	底



図IV-81 P-92・P-93

礫などは被熱し、赤色化するものが多い。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d2式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-94

位置 22M・22N・23M・23N 規模 $0.92 \times (0.50) / 2.14 \times 1.94 / 1.08$ m 平面形 楕円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層の断面形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑上面は削平されている可能性がある。坑底部の東側はP-87とわずかに切りあうが、新旧関係は不明である。

覆土 覆土は9層に分層した。覆土1層はⅢ層主体、それ以外はV層主体である。覆土上位の覆土2・3・5層には濃い黄褐色土や褐色土層、覆土中位の覆土4・7層は暗褐色土層である。覆土下位の覆土8・9は中央が高い山形の堆積で、覆土8層は褐色土、覆土9層は暗褐色土層とやや黒みがある土層の互層である。

付属遺構 溝状遺構(PD)4カ所を坑底面で確認した。PD-1～4は南北方向と東西方向に長軸のある溝状遺構が坑底面の中央で十字に交差するもので、北東側をPD-1、北西側をPD-2、南西側をPD-3、南東側をPD-4に便宜的に分けた。溝の幅は概ね20cm、深さは約9cmである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器65点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー2点、剥片40点、たたき石2点、すり石1点、砥石1点、礫8点など計124点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式が主体である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-95

位置 21M・22M・22N 規模 $0.79 \times (0.50) / 2.19 \times 2.00 / 0.94$ m 平面形 楕円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層の断面形状からフラスコ状土坑と判断した。

覆土 覆土は9層に分層した。上位の覆土1～4層と最下層の覆土7・9層はV層主体の褐色、暗褐色土層、下位の覆土5・6層はⅢ層主体の黒褐色土と暗褐色土層である。覆土7・9層は焼土が混ざり、覆土7層では炭化物が層状にみられる。

付属遺構 小土坑(PP)1基を坑底面中央で確認した。平面形は長径35cmの不整の楕円形で、深さは11cmである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器184点、両面調整石器1点、石錐1点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー2点、剥片103点、磨製石斧1点、たたき石3点、扁平打製石器2点、礫92点など計395点で、覆土下位の5～9層で遺物が多く出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層b式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。(受場)

P-96

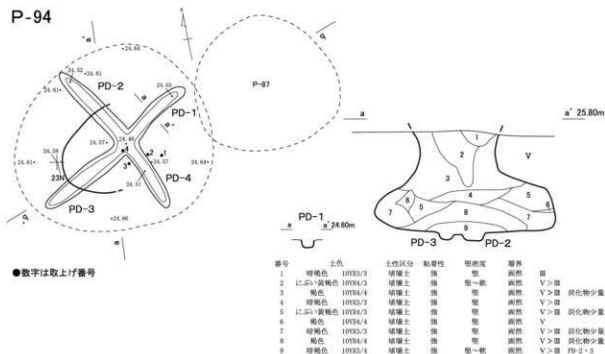
位置 22I・23H・23I 規模 $1.96 \times 1.75 / 1.66 \times 1.57 / 0.23$ m 平面形 楕円形

確認・特徴 盛土遺構の下位、Ⅳ層中で灰黄褐色土のまとまりを確認した。遺構と想定し半載したところ、覆土中の土器のまとまりと、平坦な坑底面、やや緩やかな壁の立ち上がりを検出し、土坑と判断した。

MBとの新旧関係は不明である。

覆土 3層に分層した。覆土下位には焼土を多く含む土(PF-1)を検出した。覆土は自然堆積のもの

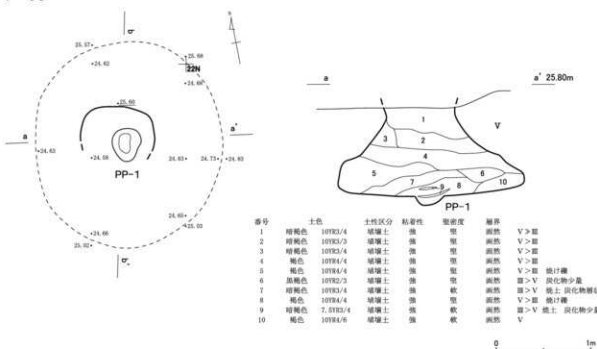
P-94



取上げ番号

番号	分層	層位	点数
1	Ⅱb	底層	2
3	Ⅱc1	底層	1
4	Ⅱb	底層	1

P-95



図IV-82 P-94・P-95(1)

と判断した。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器559点、両面調整石器1点、スクレイパー2点、Uフレイク2点、剥片872点、石核5点、扁平打製石器1点、原石1点、礫18点の計1,461点出土した。遺物は覆土中へ覆土下位や焼土から多く出土し、Ⅱ群b類の円筒土器下層d1式が2個体(図V-24-253・254)復元された。

時期 覆土からⅡ群b類土器のまとまりが検出されていることから縄文時代前期後半である。

(袖岡)

P-97

位置 21 L **規模** $- \times - / 1.82 \times (1.15) / 0.97$ m **平面形(坑底面)** 円形?

調査・特徴 P-91調査中、坑底面西端側で小土坑がみられた。別のフラスコ状土坑の存在を考え、西側は攪乱を受けていたが、トレンチを伸ばし調査した。平坦な坑底面と攪乱の西側にオーバーハングする壁を確認したため、フラスコ状土坑と判断した。攪乱により上位から下位まで破壊され、東側P-91との新旧関係は不明である。

覆土 覆土は4層に分層した。上部から坑底面近くまで攪乱され、土坑西側の下位の壁際に覆土がわずかに残る。覆土1・3層はV層主体、覆土2・4層はⅢ層主体である。

付属遺構 小土坑(P-P)1基を坑底面の中央と推定される部分で確認した。平面形は長径28cmの楕円形で、深さは5cmと浅い。断面形状は皿状である。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器42点、剥片6点、たたき石1点、すり石1点、礫2点の計52点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-98

位置 11 U・12 U **規模** $1.33 \times 1.27 / 2.19 \times (1.16) / 1.60$ m **平面形(坑底面)** 円形?

調査・特徴 盛土遺構Cの範囲を確認するためのトレンチ調査中、トレンチ断面にフラスコ状土坑の上部と推定できる土層断面がみられた。このため、この部分のトレンチをさらに掘り下げ、坑底面を確認した。土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑東側半分は調査区外で、付属遺構はない。

覆土 覆土は19層に分層した。上位の覆土2層はⅢ層主体の黒褐色土で、その下位は概ねV層主体の暗褐色土層と褐色土層の互層となる。覆土中位の覆土5層は焼土層で、土器などの遺物もみられる。覆土中位から下位の覆土13層には、炭化物が多く混じる。その下位の覆土14～19層は中央が高い山形の堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器50点、Ⅲ群a類土器4点、スクレイパー1点、剥片17点、たたき石1点、礫38点、軽石製石製品1点の計112点が出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d1式と円筒土器下層d2式の破片がある。Ⅲ群a類土器は覆土上位から出土した。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

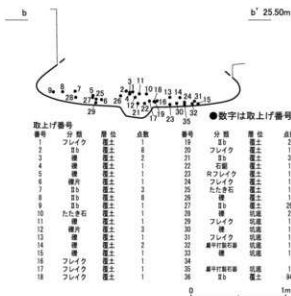
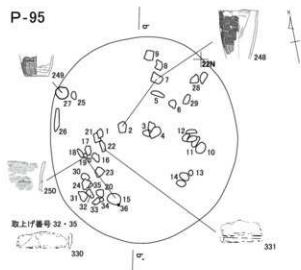
P-99

位置 12 T **規模** $0.91 \times 0.73 / 1.14 \times 1.02 / 0.42$ m **平面形(坑底面)** 楕円形

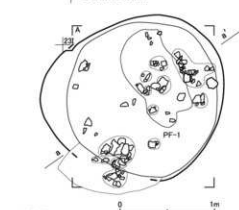
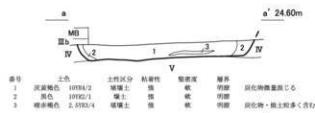
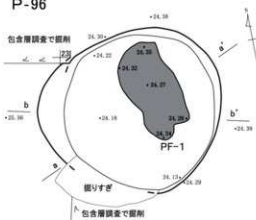
調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。土坑上部は削平され、底部付近しかないが、小型のものである。付属遺構はない。

覆土 覆土は4層に分層した。暗褐色土層(覆土1・3)が主体で、褐色土層(覆土2)、黄褐色土層(覆土4)が少量みられる。

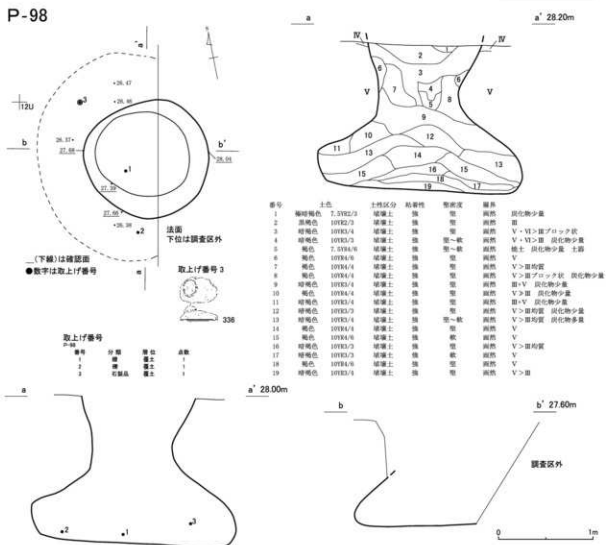
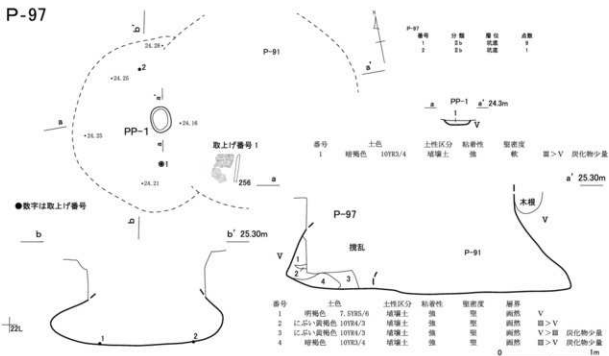
P-95



P-96

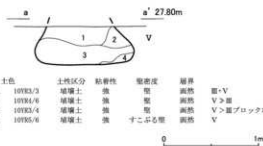
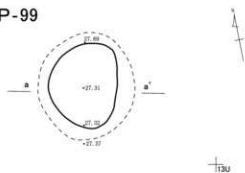


図IV-83 P-95(2)・P-96



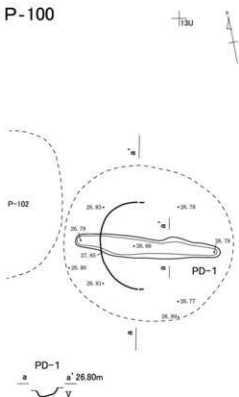
图IV-84 P-97·P-98

P-99

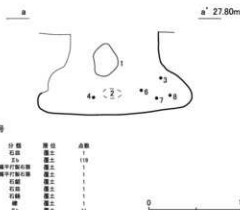
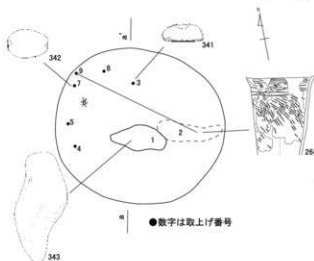


番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界	備考・V
1	暗褐色	10YR3/3	硬羅土	強	型	面然 面・V
2	褐色	10YR4/6	硬羅土	強	型	面然 V>面
3	暗褐色	10YR3/4	硬羅土	強	型	面然 V>面ブロック状
4	黄褐色	10YR5/6	硬羅土	強	寸こぶ型	面然 V

P-100



番号	土色	土性区分	粘着性	堅密度	層界	備考
1	にぶい黄褐色	10YR4/3	硬羅土	強	面然	V>面 やや白い
2	にぶい黄褐色	10YR4/3	硬羅土	強	面然	V>面
3	褐色	10YR4/6	硬羅土	強	面然	V
4	暗褐色	10YR3/4	硬羅土	強	面然	V>面 Vブロック状 炭化物少量
5	褐色	10YR4/6	硬羅土	強	面～軟	V>面 Vブロック状 炭化物少量
6	黄褐色	10YR5/6	硬羅土	強	面～軟	V>面
7	暗褐色	10YR3/4	硬羅土	強	面～軟	V>面
8	暗褐色	10YR3/4	硬羅土	強	面然	V>面 Vブロック状 炭化物少量
9	褐色	10YR4/6	硬羅土	強	面～軟	V>面 Vブロック状



取上げ番号

番号	分層	層位	点数
1	石函	層位	1
2	土	層位	119
3	土	層位	1
4	土	層位	1
5	土	層位	1
6	土	層位	1
7	土	層位	1
8	土	層位	1
9	土	層位	1

図IV-85 P-99・P-100

遺物出土状況 遺物は覆土上位を中心にⅡ群b類土器3点、石鏃1点、スクレイパー1点、剥片35点、石核1点、扁平打製石器2点、礫13点など計59点出土した。Ⅱ群b類土器は摩耗するものが多いが、円筒土器下層c式の可能性がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-100

位置 13T・13U **規模** 0.91×(0.40)/1.80×1.65/0.88m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 盛土遺構Cの範囲を確認するためのトレンチ調査中、トレンチ断面に遺構の断面がみられ、その形状からフラスコ状土坑と判断した。V層上面を精査し、中央と考えられる部分に土層断面を設定し直して、調査を行った。覆土中位には大型の石皿がみられた。

覆土 覆土は9層に分層した。いずれもV層主体で、上位はにぎい黄褐色土層や褐色土層、中位は暗褐色土層、下位には褐色土層、黄褐色土層が堆積する。

付属遺構 溝状遺構(PD)1カ所を坑底面中央で確認した。長軸は北西から南東方向で、規模は長さ1.53m、幅22cm、深さ9cmである。

遺物出土状況 遺物は覆土からⅡ群b類土器269点、つまみ付きナイフ1点、スクレイパー7点、剥片111点、石核1点、扁平打製石器2点、石鏃1点、石皿2点、礫35点など計432点出土した。土坑中央の覆土4層上面からは、長さ60cmの大型の石皿が出土し、覆土下位からは礫石器、フレイク、礫などが多く出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-101

位置 13T・14T **規模** 0.91×0.78/2.07×1.94/1.39m **平面形(坑底面)** 円形

調査・特徴 V層上面で褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。すぐ北側にはP-102がある。付属遺構はない。

覆土 覆土は13層に分層した。覆土10層はⅢ層主体で、それ以外は概ねV層主体土である。最上位の覆土1層、最下層の覆土13層は褐色土層、中位は暗褐色土層で、覆土7層と9層は焼土とV層が混じる土層である。また覆土6層と7層の間には炭化物層がある。覆土4～13層は中央が高い山形の堆積である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器48点(うち1点は擦り切り土器片)、石鏃1点、スクレイパー1点、剥片68点、磨製石斧1点、礫38点など計160点出土した。特に覆土下位(9層以下)で遺物が多い。Ⅱ群b類土器は円筒下層c式と円筒下層d1式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-102

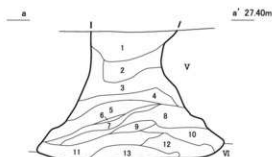
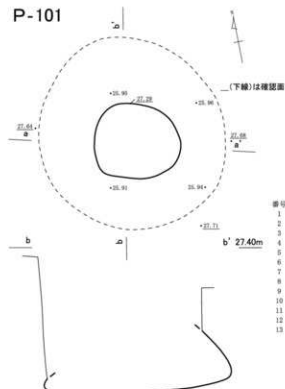
位置 13T **規模** 0.84×(0.41)/1.59×1.40/0.86m **平面形(坑底面)** 楕円形

調査・特徴 V層上面で褐色土のまとまりがみられたため、その南側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。覆土下位では遺物が多く出土した。すぐ南東側にはP-100がある。付属遺構はない。

覆土 覆土は9層に分層した。上位の覆土1～3層はV層主体の褐色土層と、にぎい黄褐色土層、下位はV層主体の暗褐色土層およびⅢ層主体の黒褐色土層が主体である。覆土6～9層には遺物が多く含まれ、覆土7層には炭化物が混じる。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器349点、つまみ付きナイフ2点、スクレイパー1点、剥片

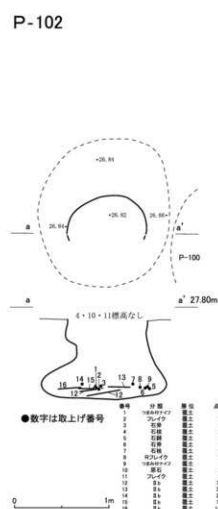
P-101



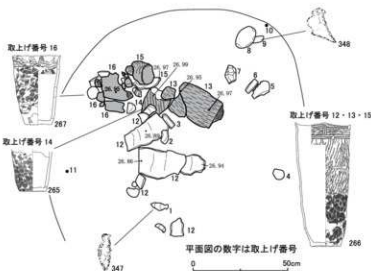
番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界	
1	褐色	10TR4/4	硬質土	強	型	自然 V>層
2	暗褐色	10TR3/3	硬質土	強	型	自然 V>層 炭化物少量
3	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	軟	自然 V>層
4	にぶい黄褐色	10TR1/3	硬質土	強	軟	自然 V>層 炭化物少量
5	暗褐色	10TR3/1	硬質土	強	軟	自然 V>層
6	にぶい黄褐色	10TR4/3	硬質土	強	軟	自然 V>層 下層に炭化物層
7	褐色	7.5TR4/4	硬質土	強	型	自然 地土+V
8	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	軟	自然 V+層 炭化物少量
9	赤褐色	5TR5/6	硬質土	強	型	自然 地土+V+層
10	暗褐色	10TR3/3	硬質土	強	軟	自然 地土+V
11	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	軟	自然 地土+V
12	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	軟	自然 V>層 Vブロック状
13	褐色	10TR4/6	硬質土	強	軟	自然 V>層

0 1m

P-102



番号	土色	土性区分	粘着性	堅硬度	層界	
1	褐色	10TR4/4	硬質土	強	型	自然 V>層
2	にぶい黄褐色	10TR4/4	硬質土	強	型	自然 V>層 一面Vブロック状
3	褐色	10TR3/3	硬質土	強	型	自然 V+層
4	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	型	自然 V+層 一面Vブロック状
5	暗褐色	10TR3/3	硬質土	強	型	自然 V+層
6	黄褐色	10TR2/3	硬質土	強	型→軟	自然 V>層 炭化物少量
7	にぶい黄褐色	10TR3/3	硬質土	強	型	自然 V>層 一面Vブロック状
8	暗褐色	10TR3/4	硬質土	強	型	自然 V+層
9	暗褐色	10TR3/3	硬質土	強	型	自然 V+層



図IV-86 P-101・P-102

24点、石核4点、磨製石斧2点、たたき石1点、礫25点など計414点出土した。覆土下位では土器3個体が横倒しで潰れた状態で出土し、つまみ付きナイフ、スクレイパー、石核、磨製石斧、たたき石、礫などが多く出土した。Ⅱ群b類土器はすべて円筒土器下層c式である。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

P-103

位置 24U・24V 規模 $1.09 \times (0.59) / 2.08 \times 1.88 / 1.98$ m 平面形(坑底面) 楕円形

調査・特徴 V層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、その西側を掘り下げ、土層断面の形状からフラスコ状土坑と判断した。覆土中位では炭化物が多く混じり、サンプルを採取し、炭化樹種同定と放射性炭素年代測定を行った。土坑の深さは1.98mと深く、V層礫層を80cm以上掘り込んだ面を坑底面とする。

覆土 覆土は13層に分層した。すべてV層主体で、覆土1・4層に薄く暗褐色土層がみられるほかは、褐色土層、黄褐色土層が堆積する。最下層の覆土13層はV層礫層主体である。覆土中位の6層・9層には炭化物が多く混じる。

付属遺構 小土坑(P) 1基を坑底面中央で確認した。平面形は直径52cmの円形で、深さは10cmである。

遺物出土状況 遺物はⅡ群b類土器54点、両面調整石器1点、スクレイパー2点、剥片1,289点、たたき石1点、礫203点など計1,555点出土した。このうち坑底面の遺物はⅡ群b類土器1点、剥片1点、たたき石1点、加工痕ある礫1点、原石2点と少ない。剥片は多く出土したが、まとまりは確認していない。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層c式と円筒土器下層d2式がある。

時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。覆土中の炭化物(Kor-31)について放射性炭素年代測定を行ったところ、 ^{14}C 年代が $4,740 \pm 30\text{yrBP}$ という推定年代と同じ結果が出た。また樹種はカエデ属である(付篇参照)。

P-104

位置 24U 規模 $1.12 \times (0.54) / - \times - / (0.63)$ m 平面形(坑底面) 不明

調査・特徴 補償道路南側地区の調査区西境のV層上面で暗褐色土のまとまりがみられたため、南東側を50cmほど掘り下げた。土層からフラスコ状土坑と判断した。調査区境は斜めに法面をつけ、法面部分は調査しないことになっており、開口部の一部の調査し、それ以下は調査区外扱いとなった。

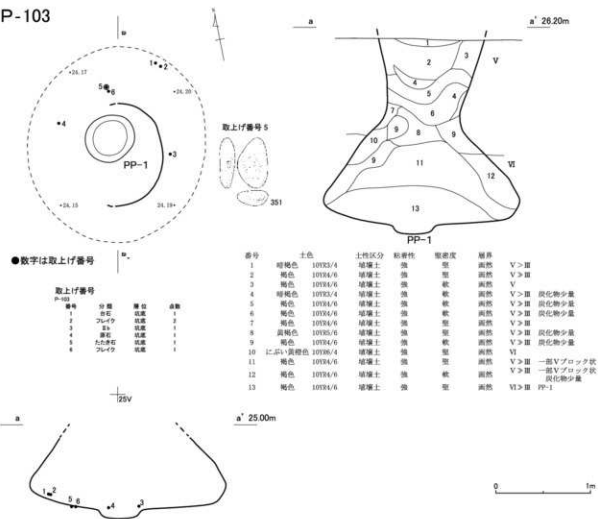
覆土 覆土は5層に分層した。開口部部分の土層で、覆土1層は暗褐色土層、それ以外はV層主体の褐色土層である。下位は、調査区境の壁が法面で、斜めであるため調査区外である。

遺物出土状況 遺物は覆土中からⅡ群b類土器12点、スクレイパー1点、剥片125点、礫24点の計162点出土した。Ⅱ群b類土器は円筒土器下層d2式である。

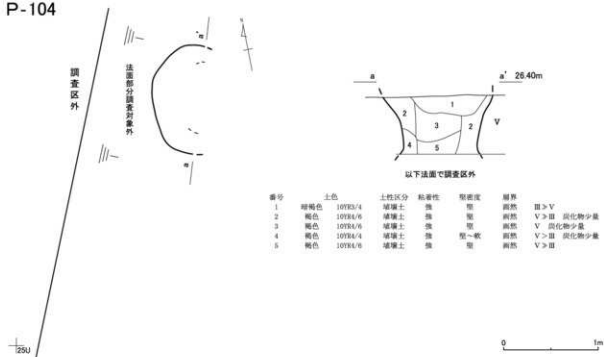
時期 出土遺物から縄文時代前期後半と考える。

(受場)

P-103



P-104



図IV-87 P-103・P-104

4. 小土坑

小土坑は164が所検出した。平面図は1/300の全体図もしくは1/100の集中城図で示し、土層断面図は番号順に1/40図で示した。以下まとめて概要を記述する（規模等は表IV-3参照）。

調査・特徴・覆土

小土坑はSP-164がⅢ層で確認された以外は、すべてV層面で確認した。土坑半分をトレンチ状に広く掘り下げ、断面を記録した後、もう半分の覆土を掘り進めた。小土坑は調査区東側のG～Kラインに分布するものと、フラスコ状土坑分布域のM～Uラインに分布するものに分けられる。

調査区西側（G～Kライン）の小土坑

SP-1～100、102～133、142～163がある。フラスコ状土坑分布域の西側に位置し、調査区北側では密集し、接するものも多い。小土坑の分布には、列状になるものがあるが、明確に建物の構造を伺えるものはない。SP-5はP-26、SP-122はP-27、SP-125はP-35と切りあい、SP-142～144・147～159・162は盛土遺構B（MB）下位で確認された。SP-147～150・153～156では覆土中にV層主体の土がみられたが、MBとの新旧関係は不明である。

小土坑の平面形は、円形もしくは楕円形で、底面は平坦または丸みを帯びる。規模は長径が13～88cmで、20～40cmのものが多くみられる。深さは5～88cmである。覆土は黒褐色土～褐色土層が1～3層堆積するものが多く、炭化物が混じるものもある。断面形状が皿状でやや浅いSP-111・113・118は土坑で、それ以外は柱穴・杭穴と考えられる。

フラスコ状土坑分布域（M～Uライン）の小土坑

SP-101・134～141・164がある。SP-164以外はフラスコ状土坑近くに位置し、SP-101・135・136 a b・138は3m程の範囲に密集して分布する。

平面形は円形もしくは楕円形で、底面は平坦もしくは丸みを帯びるものが多い。規模は長径・直径が18～55cm、深さがSP-134・139（V層面から約1m掘り下げたトレンチ下面で検出）以外は42cm～1.2mで、いずれも大型の柱穴・杭穴と考えられる。覆土は褐色土と暗褐色土の互層で、炭化材が混じるものが多く、V層主体土で埋め戻されるものもある。

遺物出土状況

SP-38からはⅡ群b類土器29点、剥片3点、礫1点が出土し、円筒土器下層c式の口縁部付近が復元された。SP-58ではスクレイパー1点、剥片67点、石核5点が土坑内に充填されて出土した。SP-165では炭化物が付着した扁平打製石器が出土した。またSP-141からはクリの炭化種実が1点出土した。それ以外はⅡ群b類土器、剥片、礫などが少量出土するか、遺物が出土しないものが多い。

時 期 出土遺物や周辺の遺構から縄文時代前期後半と考える。（愛場）

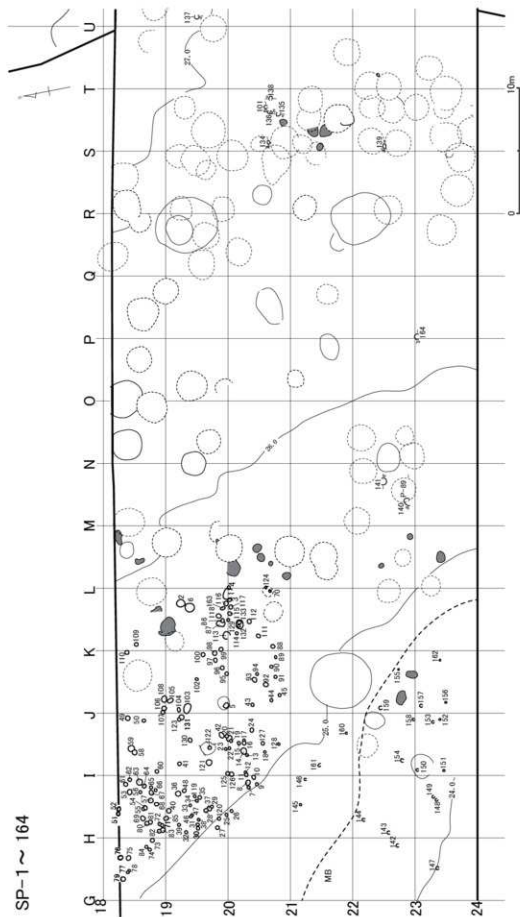
5. 焼土

焼土は18が所検出した。以下まとめて概要を記述する（規模等は表IV-4参照）。

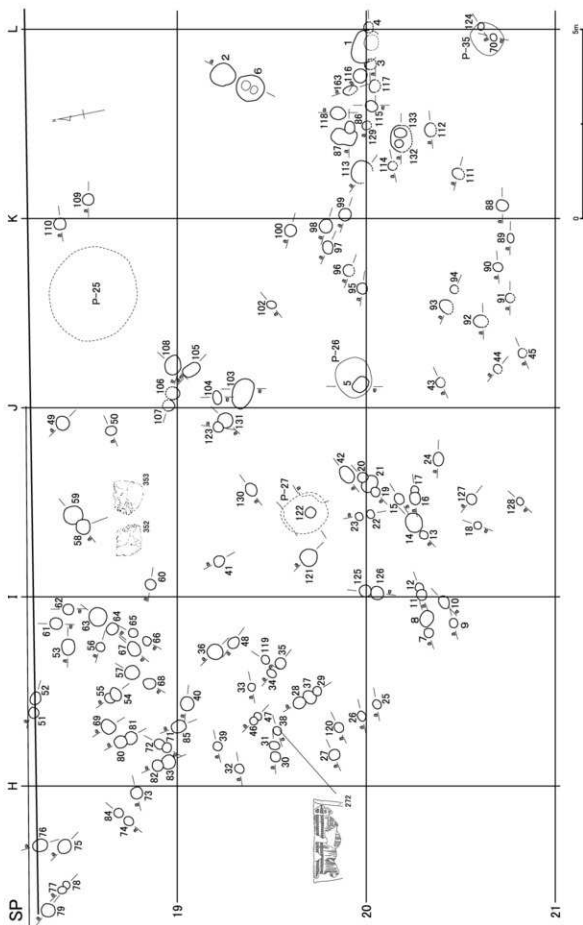
焼土はフラスコ状土坑や盛土遺構周辺に分布し、確認面はF-10がⅢ層、F-11・18がⅣ層、それ以外はV層である。

フラスコ状土坑周辺の焼土はF-1～9・12～17で、F-1はP-45、F-2はP-32・34、F-4はP-62、F-13はP-29、F-14はP-45、F-16はP-42に近接する。F-2は中央部が暗褐色土と灰の可能性があり、その周囲に環状に焼土がみられるものである。F-14はP-45開口部西側か

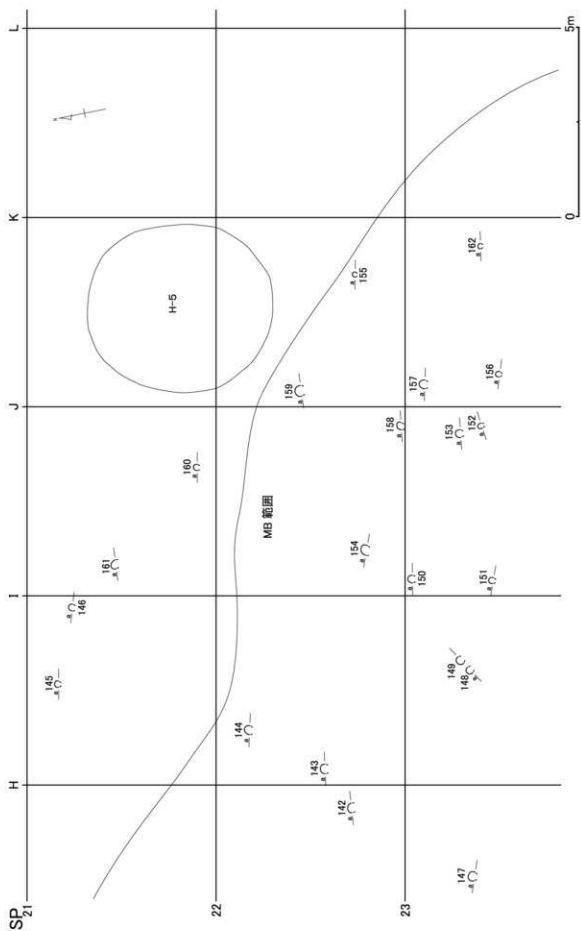
SP-1 ~ 164



図IV-88 SP-1 ~ 164位置図



図IV-89 調査区西側のSP集中区(1)



図IV-90 調査区西側のSP集中区(2)

